参考資料６

目黒区地域福祉保健医療計画の策定に関する調査報告書

（速報版）

令和７年10月

目　次

Ⅰ　調査の概要 1
　1　調査の目的 1
　2　調査の設計 1
Ⅱ　アンケート調査の結果 2
　1　団体等の属性・活動内容について 2
　2　活動地区（担当地区）の現況や課題について 7
　3　団体等で取り組んでいる地域活動について 10
　4　複合的・複雑な問題・課題を抱えるケースへの対応等について 13
　5　孤立世帯・ひきこもりへの対応等について 18
　6　活動（事業）を行う上での困りごとや区に期待することについて 22
　7　他の団体等との協力・連携について 29
　8　福祉サービスの充実のために特に重要な取組について 36
Ⅲ　ヒアリング調査の結果 39
　※調査実施後追加予定

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

本調査は、令和８年度中に「目黒区地域福祉保健医療計画」を策定するにあたり、地域での活動や福祉事業を行っている団体（事業者）の皆様に、日頃感じている福祉に関する課題やご意見を伺い、計画に反映させることを目的として実施した。

2　調査の設計及び実施概要

（1）アンケート調査

①調 査 地 域：目黒区全域
②調 査 対 象：地域での活動や福祉事業を行う各種団体
③調査標本数：576 団体
④調 査 方 法：郵送配布・回収・インターネット回答併用あるいはメールによる配布・インターネット回答
⑤調 査 期 間：令和７年7月 10 日（木）～7月 28 日（月）
⑥回 収 結 果：

対象数	有効回答数	回答率
576	370（郵送 220／Web150）	64.2%

（2）ヒアリング調査

※令和７年９月に実施予定

3　報告書を見る上での注意点

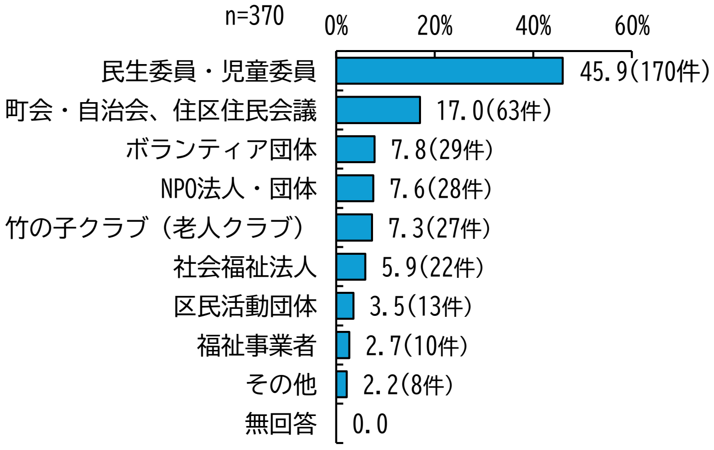
・集計は、小数点以下第２位を四捨五入している。従って、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、足し合わせて 100.0%にならない場合がある
・基数になる実数は設問に対する回答者数である。よって、設問によって異なる場合があり、同じ調査であっても実数が同じでない場合がある。
・回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。従って、複数回答の設問は全ての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。

Ⅱ　アンケート調査の結果

1　団体等の属性・活動内容について

（1）所属する団体等の種別（単数回答）：【問１】

・「民生委員・児童委員」が 45.9%と半数近く、「町会・自治会、住区住民会議」（17.0%）、「ボランティア団体」（7.8%）、「NPO 団体」（7.6%）が続く。

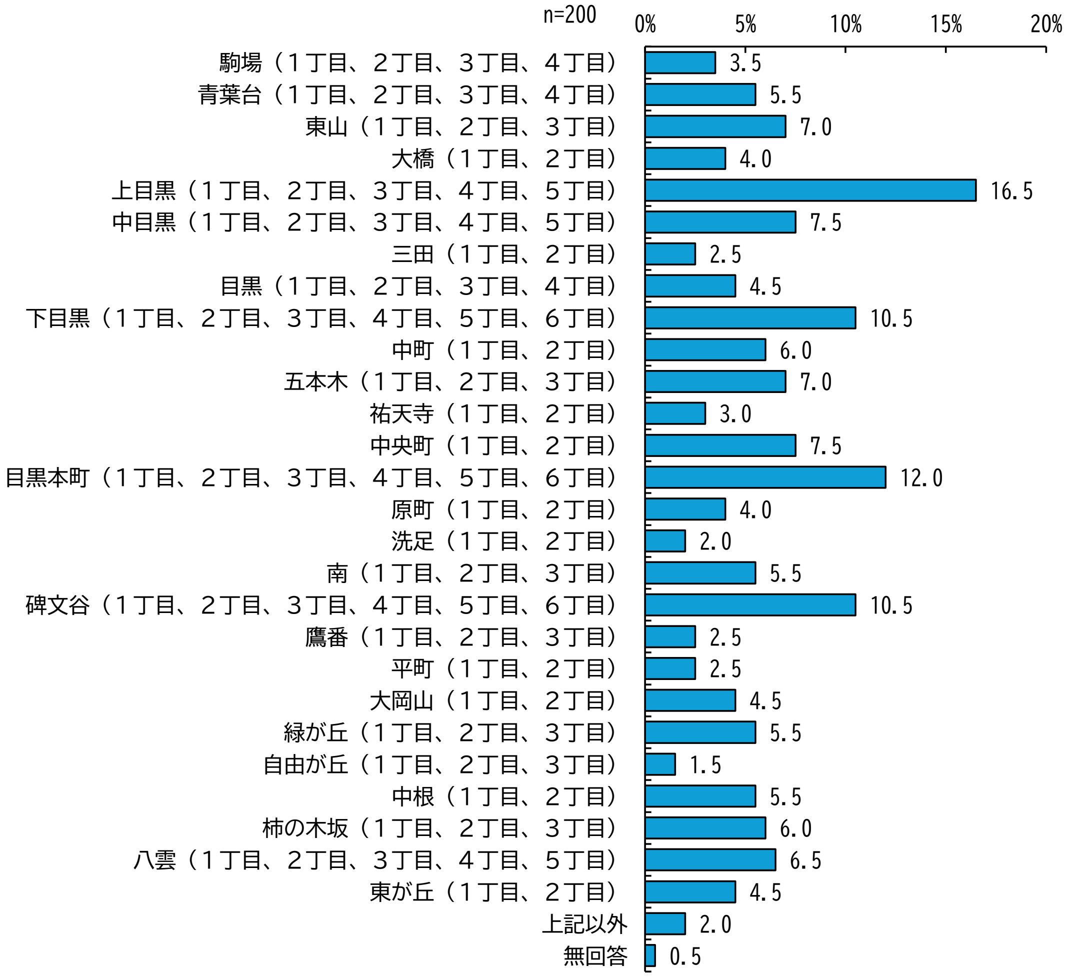


所属団体等の区分の基本情報に関する考察・備考

民生委員・児童委員の回答数が 170 サンプルであるのに対し、区民活動団体は 13 サンプル、福祉事業者は 10 サンプルなど、大きなばらつきがある。このため、全回答数の 45.9%を占める民生委員・児童委員の傾向が全体の傾向に反映されやすい。

（２）団体等の活動場所及び事業所の目黒区内の所在地（複数回答）：【問２】

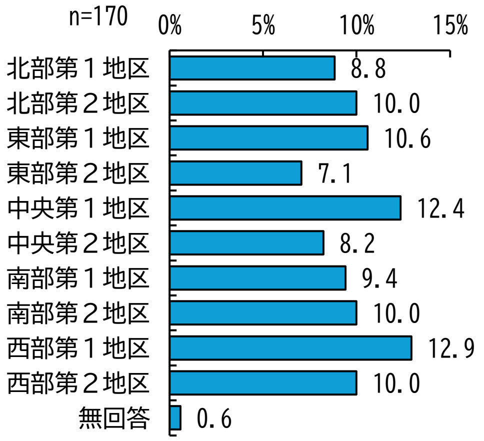
・「上目黒（１丁目、２丁目、３丁目、４丁目、５丁目)」（16.5%）と最も多く、次いで「目黒本町（１丁目、２丁目、３丁目、４丁目、５丁目、６丁目)」(12.0%)、「下目黒（１丁目、２丁目、３丁目、４丁目、５丁目、６丁目)」「碑文谷（１丁目、２丁目、３丁目、４丁目、５丁目、６丁目)」（10.5%）が続く。



※民生委員・児童委員を除く集計

（３）民生委員・児童委員の担当区域（単数回答）：【問３】

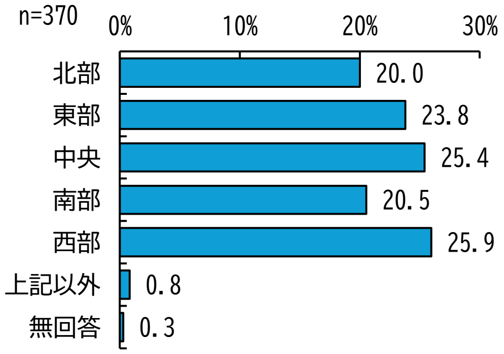
・「西部第１地区」（12.9％）が最も多く、次いで「中央第１地区」（12.4％）、「東部第１地区」（10.6％）と続く。



※民生委員・児童委員のみの集計

（４）団体等の活動地区（複数回答）：【問２及び問３を再集計】

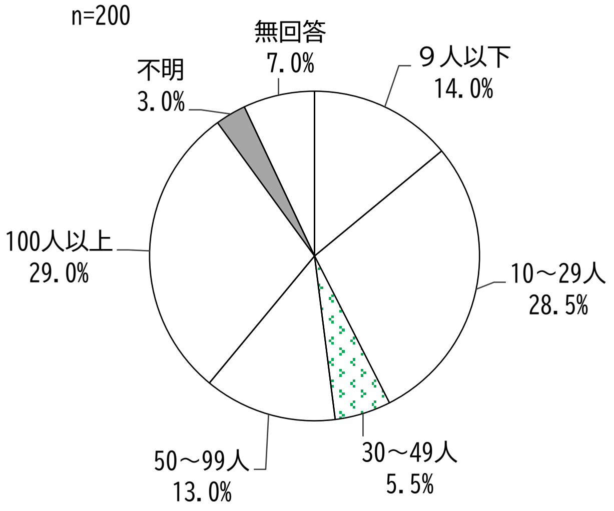
・西部地区、中央地区、東部地区と続き、南部地区、北部地区がやや少ないものの、各地区２割を超えて概ねバランスよく回答を得られている。



※問２及び問３の回答結果に基づき、民生委員・児童委員を含む全ての団体等の活動地区として再集計

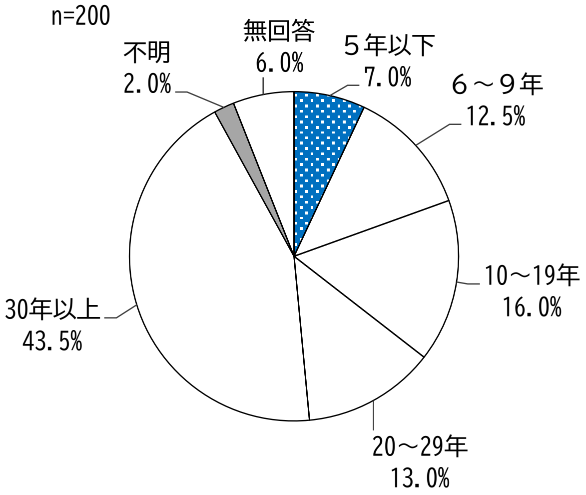
（５）団体等の会員数、活動年数（単数回答）：【属性に関する設問】

・会員数は、「100 人以上」（29.0%）が最も多く、次いで「10～29 人」（28.5%）、「9 人以下」（14.0%）と続く。



※民生委員・児童委員を除く集計

・活動年数は、「30 年以上」（43.5%）が最も多く、次いで「10～19 年」（16.0%）、「20～29 年」（13.0%）と続く。

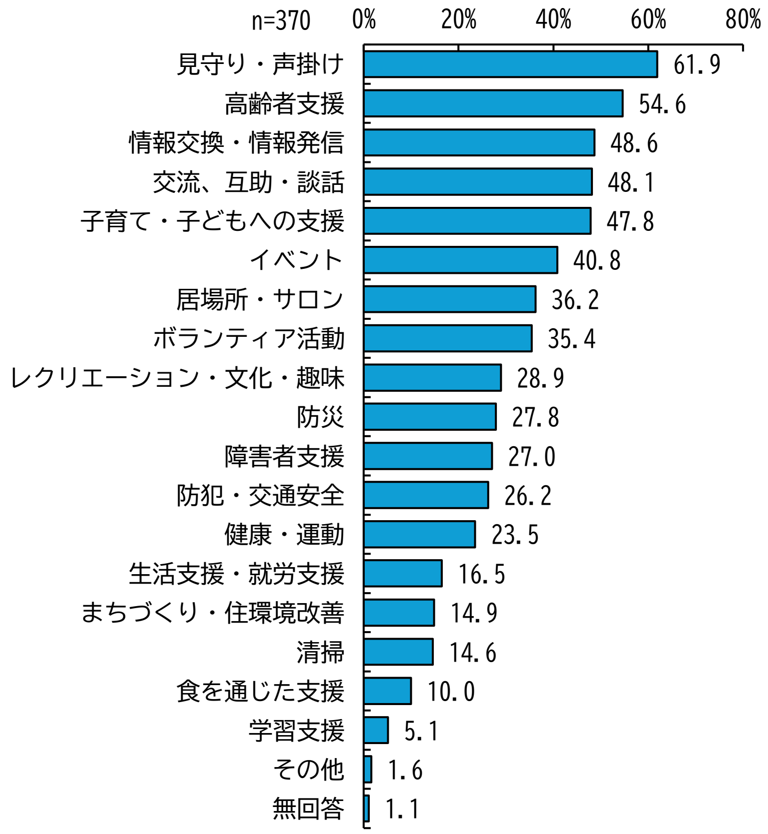


※民生委員・児童委員を除く集計

（6）団体等の活動内容（複数回答）：【問４】

・「見守り・声掛け」（61.9%）が最も多く、次いで「高齢者支援」（54.6%）、「情報交換・情報発信」（48.6%）、「交流、互助・談話」（48.1%）、「子育て・子どもへの支援」（47.8%）と続く。

・活動地区別でみると、いずれの地域でも「見守り・声掛け」の割合が最も高くなっているものの、北部では「情報交換・情報発信」、中央では「交流、互助・談話」の割合が比較的高いなど地域別の特徴がみられる。



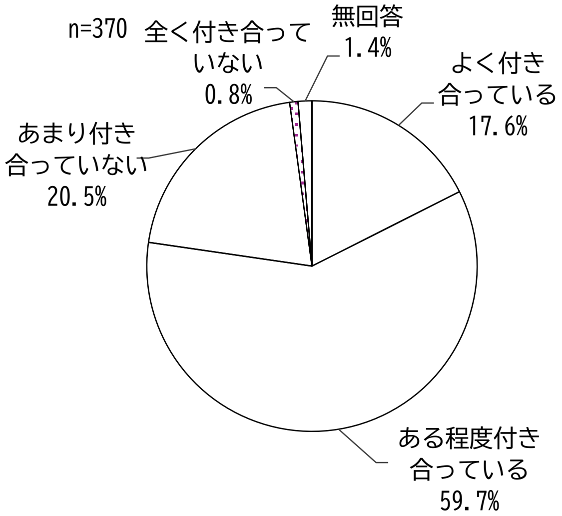
	合計	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
北部	74	見守り・声掛け **58.1**	情報交換・情報発信 54.1	高齢者支援 54.1	交流、互助・談話 52.7	子育て・子どもへの支援 48.6	イベント 47.3	居場所・サロン 40.5	ボランティア活動 36.5
東部	88	見守り・声掛け **59.1**	高齢者支援 54.5	交流、互助・談話 53.4	情報交換・情報発信 50.0	イベント 47.7	居場所・サロン 42.0	ボランティア活動 40.9	子育て・子どもへの支援 40.9
中央	94	見守り・声掛け **57.4**	交流、互助・談話 52.1	情報交換・情報発信 50.0	子育て・子どもへの支援 47.9	高齢者支援 45.7	イベント 43.6	居場所・サロン 38.3	ボランティア活動 36.2
南部	76	見守り・声掛け **59.2**	高齢者支援 57.9	情報交換・情報発信 50.0	交流、互助・談話 46.1	イベント 46.1	子育て・子どもへの支援 44.7	ボランティア活動 39.5	居場所・サロン 38.2
西部	96	見守り・声掛け **61.5**	高齢者支援 56.3	交流、互助・談話 55.2	情報交換・情報発信 52.1	子育て・子どもへの支援 43.8	イベント 41.7	居場所・サロン 40.6	ボランティア活動 38.5

※地域別の上位８項目の割合、単位：％

2　活動地区（担当地区）の現況や課題について

（１）住民の地域での付き合いの程度（単数回答）：【問５】

・「よく付き合っている」（17.6%）と「ある程度付き合っている」（59.7%）を合わせた『付き合っている』の割合が 77.3%に対し、「あまり付き合っていない」（20.5%）と「全く付き合っていない」（0.8%）を合わせた『付き合っていない』は 21.3%となっている。
・活動地区別でみると、北部で『付き合っている』の割合が高くなっている一方、西部と中央で『付き合っていない』の割合がやや高い。



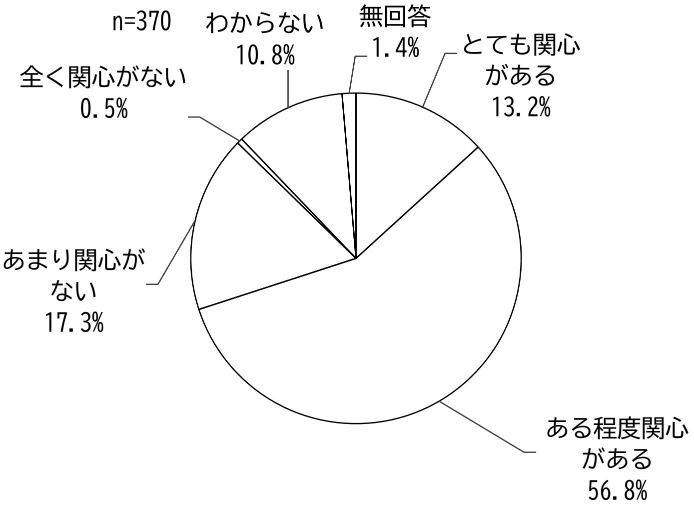
		合計	① よく付き合っている	② ある程度付き合っている	③ あまり付き合っていない	④ 全く付き合っていない	無回答	①+② 『付き合っている』	③+④ 『付き合っていない』
全体		370	17.6	**59.7**	20.5	0.8	1.4	77.3	21.3
活動地区	北部	74	23.0	**66.2**	8.1	1.4	1.4	89.2	9.5
	東部	88	19.3	**59.1**	19.3	1.1	1.1	78.4	20.4
	中央	94	13.8	**59.6**	24.5	1.1	1.1	73.4	25.6
	南部	76	19.7	**55.3**	22.4	0.0	2.6	75.0	22.4
	西部	96	18.8	**54.2**	25.0	2.1	0.0	73.0	27.1
	上記以外	3	33.3	0.0	**66.7**	0.0	0.0	33.3	66.7

単位：%

（２）住民は地域での支え合いや助け合いの活動に関心があると思うか（単数回答）：【問６】

・「とても関心がある」（13.2%）と「ある程度関心がある」（56.8%）を合わせた『関心がある』の割合が 70.0%に対し、「あまり関心がない」（17.3%）と「全く関心がない」（0.5%）を合わせた『関心がない』は 17.8%となっている。

・活動地区別でみると、北部と南部で『関心がある』の割合がやや高くなっている一方、西部と中央で『関心がない』の割合がやや高い。



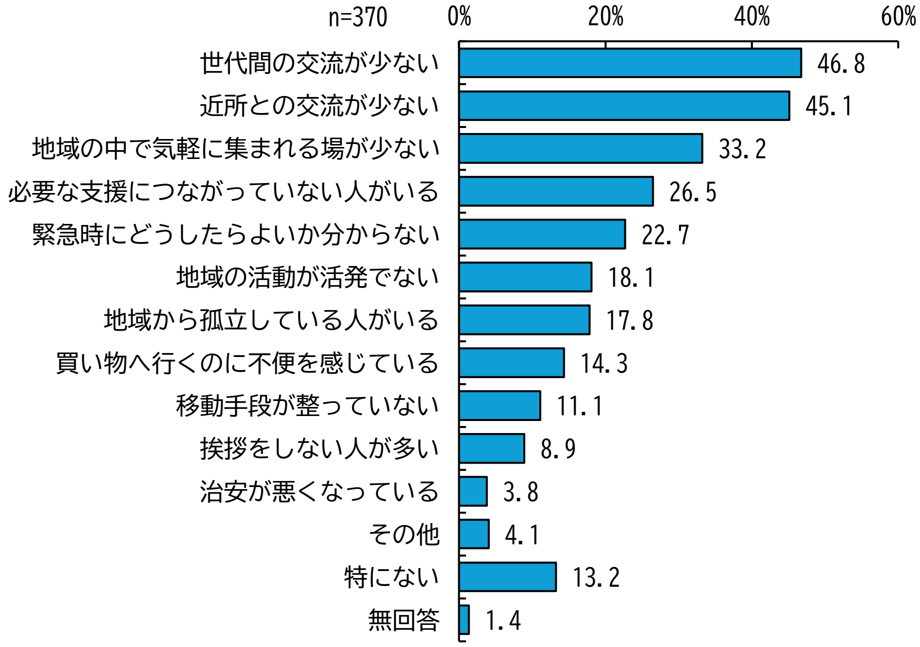
		合計	① とても関心がある	② ある程度関心がある	③ あまり関心がない	④ 全く関心がない	わからない	無回答	①+② 『関心がある』	③+④ 『関心がない』
全体		370	13.2	56.8	17.3	0.5	10.8	1.4	70.0	17.8
活動地区	北部	74	17.6	58.1	14.9	0.0	8.1	1.4	75.7	14.9
	東部	88	11.4	58.0	18.2	1.1	9.1	2.3	69.4	19.3
	中央	94	13.8	59.6	20.2	0.0	6.4	0.0	73.4	20.2
	南部	76	18.4	56.6	17.1	0.0	6.6	1.3	75.0	17.1
	西部	96	7.3	51.0	20.8	1.0	19.8	0.0	58.3	21.8
	上記以外	3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3

単位：%

（3）地域の中で課題に感じることや活動（事業）を通してよく聞く困りごと（複数回答）：【問 7】

・「世代間の交流が少ない」（46.8%）と「近所との交流が少ない」（45.1%）が特に多く、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」（33.2%）、「必要な支援につながっていない人がいる」（26.5%）なども上位に挙げられている。

・活動地区別でみると、東部と西部で「近所との交流が少ない」の割合が最も高く、西部では「必要な支援につながっていない人がいる」がやや高くなっている。また、東部と中央では「緊急時にどうしたらよいか分からない」、南部と西部では「地域から孤立している人がいる」の割合が比較的高い。



		1位	2位	3位	4位	5位
北部	合計 74	世代間の交流が少ない **44.6**	近所との交流が少ない 32.4	地域の中で気軽に集まれる場が少ない 29.7	必要な支援につながっていない人がいる 25.7	緊急時にどうしたらよいか分からない 20.3
東部	合計 88	近所との交流が少ない **53.4**	世代間の交流が少ない **53.4**	地域の中で気軽に集まれる場が少ない 37.5	緊急時にどうしたらよいか分からない 29.5	必要な支援につながっていない人がいる 27.3
中央	合計 94	世代間の交流が少ない **50.0**	近所との交流が少ない 44.7	地域の中で気軽に集まれる場が少ない 34.0	緊急時にどうしたらよいか分からない 29.8	必要な支援につながっていない人がいる 27.7
南部	合計 76	世代間の交流が少ない **46.1**	近所との交流が少ない 43.4	地域の中で気軽に集まれる場が少ない 30.3	必要な支援につながっていない人がいる 25.0	地域から孤立している人がいる 22.4
西部	合計 96	近所との交流が少ない **50.0**	世代間の交流が少ない 44.8	必要な支援につながっていない人がいる 29.2	地域の中で気軽に集まれる場が少ない 26.0	地域から孤立している人がいる 20.8

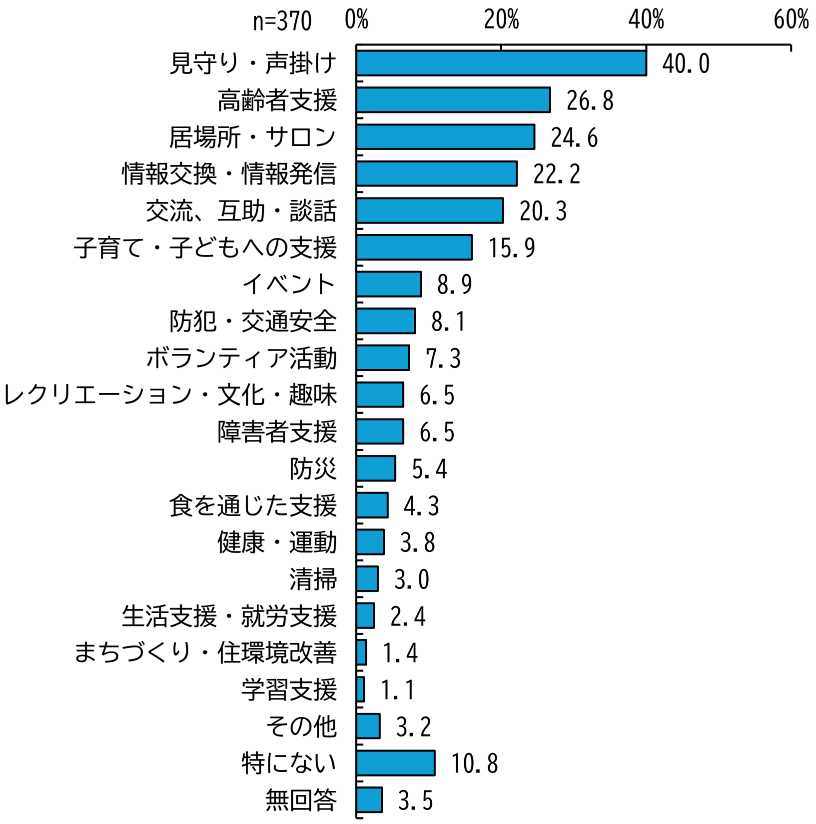
※地域別の上位５項目の割合、単位：％

3　団体等で取り組んでいる地域活動について

（1）地域で困りごとを抱える方への具体的な対応（複数回答）：【問８】

・「見守り・声掛け」（40.0%）が特に多く、次いで「高齢者支援」（26.8%）、「居場所・サロン」（24.6%）、「情報交換・情報発信」（22.2%）、「交流、互助・談話」（20.3%）などが上位に挙げられている。

・活動地区別でみると、北部と西部で「見守り・声掛け」の割合が特に高い。また、南部で「居場所・サロン」の割合が比較的高くなっている。



		1位	2位	3位	4位	5位
北部	合計 74	見守り・声掛け **41.9**	居場所・サロン／交流、互助・談話 27.0		情報交換・情報発信 20.3	子育て・子どもへの支援 18.9
東部	合計 88	見守り・声掛け **34.1**	高齢者支援 26.1	居場所・サロン 25.0	交流、互助・談話 22.7	情報交換・情報発信 22.7
中央	合計 94	見守り・声掛け **28.7**	居場所・サロン／高齢者支援 25.5		情報交換・情報発信 22.3	交流、互助・談話 21.3
南部	合計 76	見守り・声掛け **34.2**	居場所・サロン 30.3	高齢者支援 27.6	情報交換・情報発信 18.4	交流、互助・談話／子育て・子どもへの支援 17.1
西部	合計 96	見守り・声掛け **41.7**	居場所・サロン／高齢者支援 26.0		情報交換・情報発信 25.0	交流、互助・談話 22.9

※地域別の上位５項目の割合、単位：%

（2）地域で困りごとを抱える方への具体的な対応（記述回答）：【問 8】

・地域で困りごとを抱える方への具体的な対応について、記述件数は以下の通り。

困りごとを抱える方への具体的な対応	件数
見守り・声掛け	114
居場所・サロン	75
高齢者支援	73
情報交換・情報発信	57
交流、互助・談話	48
子育て・子どもへの支援	33
イベント	22
レクリエーション・文化・趣味	17
ボランティア活動	17
防犯・交通安全	16
防災	14
障害者支援	11
食を通じた支援	10
健康・運動	8
清掃	6
生活支援・就労支援	4
まちづくり・住環境改善	2
学習支援	2
その他	11

・以下、上位に挙げられた項目（20 件以上）の主な記述内容を抜粋し、掲載する。

■見守り・声掛け

・小学校校門での朝の挨拶運動。登下校時の声がけ。高齢者ひとり暮らし等登録されている方へ近くに行った際の訪問・声かけ。夜まで子どもだけ世帯への見守り。（北部、民生委員・児童委員）
・ひとり暮らしの方をサロンや街の催事に誘っている。（北部、ボランティア団体）
・関係機関と連携し、地域の活動組織や個人宅などへ訪問し、互いの顔が見える対面形式で、相談先の紹介や顔つなぎを行う。（東部、社会福祉法人）

■居場所・サロン

・障害のある方への余暇支援として、平日や土日に活動を提供し、本人の精神的な居場所になっている。（中央、NPO 法人・団体）
・フリースペース、子ども食堂の開催。不登校の子ども、ひきこもり気味の若者とその保護者が無理せずにいられるよう心掛けている。（南部、ボランティア団体）
・町会事務所（和室）の日時を決めて開放している。その席で参加者の困り事も聞いている。（西部、町会・自治会、住区住民会議）

■高齢者支援

・何を困っているのか、本人がわかっていないケースが増えている。生活が大変と発言が多い。認知症で家族からの相談がないためどう関わっていいかわからない。（北部、民生委員・児童委員）
・サロン開催日に連絡なく欠席するなどの高齢者には担当の地域包括支援センター又は区の関係課に連絡し、見守りや自宅訪問の依頼をしている。（東部、ボランティア団体）
・介護保険サービスの提供、介護相談。（中央、福祉事業者）
・聞き取った困りごとを地域の課題として、協議体で共有している。（中央、社会福祉法人）

■情報交換・情報発信

・学校、児童館、学童保育、こども家庭センター、児童相談所の職員と心配な家庭、子どもの情報交換を行う。（中央、民生委員・児童委員）
・町内組長（住戸 6～10 単位）により毎月の町会便りを戸別訪問にて配布し生活の様子把握を心がけている。（西部、町会・自治会、住区住民会議）
・西部地区は5住区あり、住区ごとに井戸端会議を開催し、地域で活動している方に集っていただき、あったらいい、できたらいい等で意見を交換し、それぞれの活動を線で繋ぎ対応できるようにしている。（西部、その他）

■交流、互助・談話

・認知症カフェの実施。（北部、社会福祉法人）
・地域で困りごとを抱える方へ参加を促せるような交流イベント等を、住民有志と企画実施。（東部、社会福祉法人）
・世代を超えた交流をすることで、利用者の貴重な情報共有の場であり、そもそも交流を目的とした関りがある。（中央、NPO 法人・団体）
・定期的に話を聞き、LINEを交換し愚痴をこぼしやすい環境を作っている。（西部、民生委員・児童委員）

■子育て・子どもへの支援

・育て方が難しかったり、発達障害の子どもがいる家族の関わり方の相談や、子ども自身の相談。（北部、NPO 法人・団体）
・児童館にふれあいボックスを設置して、子どもからの相談事を聞いて返事を出している。（北部、民生委員・児童委員）
・フリースペース、子ども食堂の開催。子どものやりたいことをサポートしている。あそび場の提供、ワークショップ、自主上映会の開催など。子ども、保護者が自由に自分の気持ちや困りごとを話せるような雰囲気を大事に関り、話を聴き、一緒に考えるようにしている。（南部、ボランティア団体）

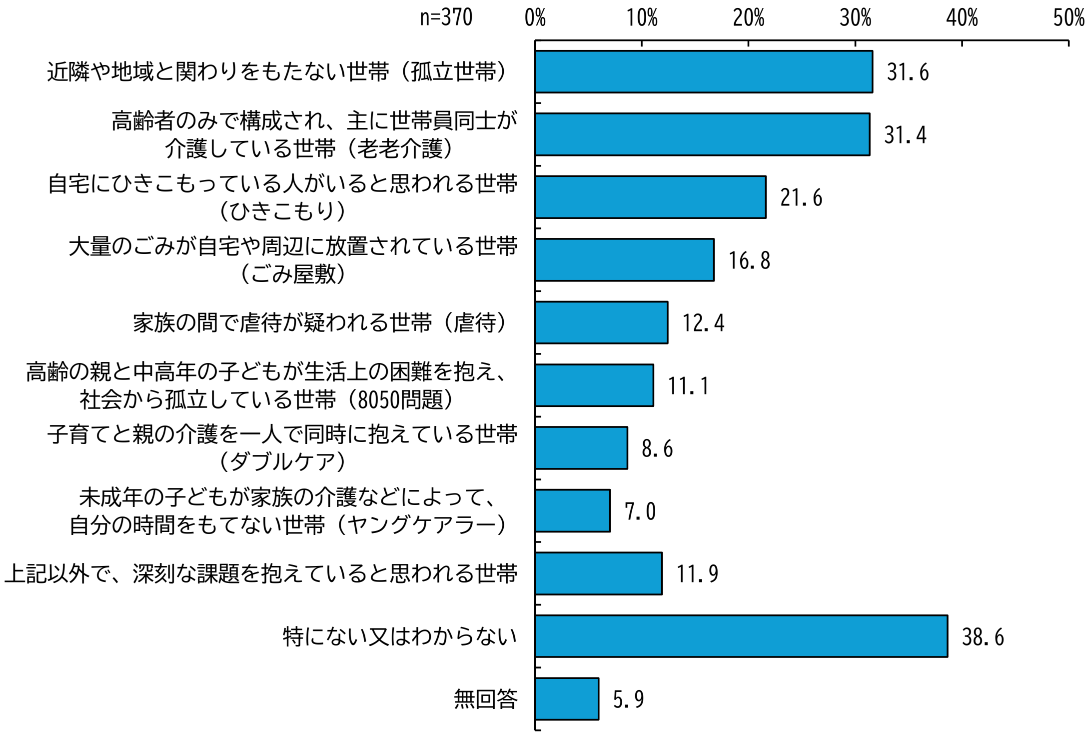
■イベント

・イベント時、気軽に立ち寄れるような相談ブースを設け、子育ての不安などを聴いている。必要により関係機関と情報共有。（北部、民生委員・児童委員）
・東部地区の活動団体、施設、行政や社会福祉協議会のサービスなど、様々な役に立つ情報を集め、紹介するイベントを年一回行っている。「情報を知る・情報を伝える・自分を活かす」ことで、地域の支え合いが広がることを願い、イベントを行っている。（東部、その他）
・毎月第二水曜に「ダレデモカフェ」を開催し、地域の談話の場を提供。（西部、竹の子クラブ（老人クラブ））

4　複合的・複雑な問題・課題を抱えるケースへの対応等について

（1）活動（事業）を通して、問題のある世帯を見聞きした経験（複数回答）：【問９】

・「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」（31.6％）と「高齢者のみで構成され、主に世帯員同士が介護している世帯（老老介護）」（31.4％）が特に多く、「自宅にひきこもっている人がいると思われる世帯（ひきこもり）」（21.6％）、「大量のごみが自宅や周辺に放置されている世帯（ごみ屋敷）」（16.8％）、「家族の間で虐待が疑われる世帯（虐待）」（12.4％）なども一定の割合を占めている。
・活動地区別でみると、西部と南部で「老老介護」「孤立世帯」の割合が比較的高い。



		１位	２位	３位	４位	５位	特にない又はわからない
北部	合計 74	孤立世帯 28.4	老老介護 25.7	ごみ屋敷 23.0	ひきこもり 20.3	虐待 12.2	**40.5**
東部	合計 88	老老介護 33.0	孤立世帯 26.1	ひきこもり 22.7	ごみ屋敷 17.0	虐待 17.0	**40.9**
中央	合計 94	孤立世帯 30.9	老老介護 28.7	ひきこもり 26.6	ごみ屋敷 16.0	8050 問題 14.9	**36.2**
南部	合計 76	老老介護 **36.8**	孤立世帯 35.5	ひきこもり 21.1	ごみ屋敷 18.4	ダブルケア 13.2	34.2
西部	合計 96	老老介護／孤立世帯 **37.5**		ひきこもり 26.0	ごみ屋敷 15.6	虐待 12.5	35.4

※地域別の上位５項目及び「特にない又はわからない」の割合、単位：％

・選択肢に挙げられた世帯以外で、深刻な課題を抱えていると思われる世帯について記入してもらったところ、認知症や障害、高齢になってからの病気やケガなどの問題を抱える世帯のほか、それらの問題・課題を複数抱える世帯について一定数の記述があった。以下、具体的な記述があったものを抜粋して掲載する。

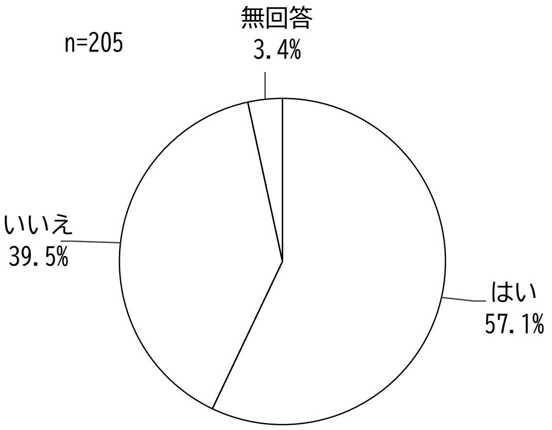
■その他の深刻な課題を抱えていると思われる世帯

・ 認知症の夫に気がついていても面倒を見ることができず近隣の方と見かけた時は気を付けるようにしている。地域包括支援センターとは連絡を取り合っている。（北部、民生委員・児童委員）
・ 障害特性の理解ができず、子どもに合わせた支援の環境や教育環境の選択をすることが難しい世帯。（北部、NPO 法人・団体）
・ 知的障害があるにもかかわらず、親が障害受容できないために、子どもの不利益となっているケースがある。（北部、社会福祉法人）
・ 失業、病気、障害等により正社員になれず、十分な食材が購入できないほど経済的に困窮する世帯が目黒区に少なくとも数千世帯以上見込まれる。（東部、中央、南部、西部、NPO 法人・団体）
・ 眼が不自由な高齢者のひとり暮らしの方への生活支援。行政が関わっていると思うが、十分でないと思える。中途失明者なので外出時に気軽に付き添ってくださるボランティアがいればいいと思うが。（中央、町会・自治会、住区住民会議）
・ 認知症の親を精神疾患のある子が介護している。（中央、民生委員・児童委員協議会）
・ 一人住まいの高齢者の認知症状が進み、近所の方が対応に苦慮している。（南部、区民活動団体）
・ 高齢で障害の子どもの世話をしている方、ヘルパーの世話にならないで頑張ろうとしている方がいて、見るからに大変なのに自分一人でやろうとしている。（西部、民生委員・児童委員）
・ 精神的にも問題を抱え日常生活がギリギリな状況のひとり暮らし。（西部、民生委員・児童委員）

（2）「(1)」の世帯（孤立世帯、老老介護等）を支援した経験の有無（単数回答）：【問 10】

・(1）で“何らかの問題がある世帯を見聞きした経験がある”と回答した方に、そうした世帯への支援の経験の有無を聞いたところ、「はい（ある)」が 57.1%に対し、「いいえ（ない)」が 39.5%となっている。

・団体等の種別でみると、民生委員・児童委員や区民活動団体などで「はい（ある)」の割合がやや高くなっている。

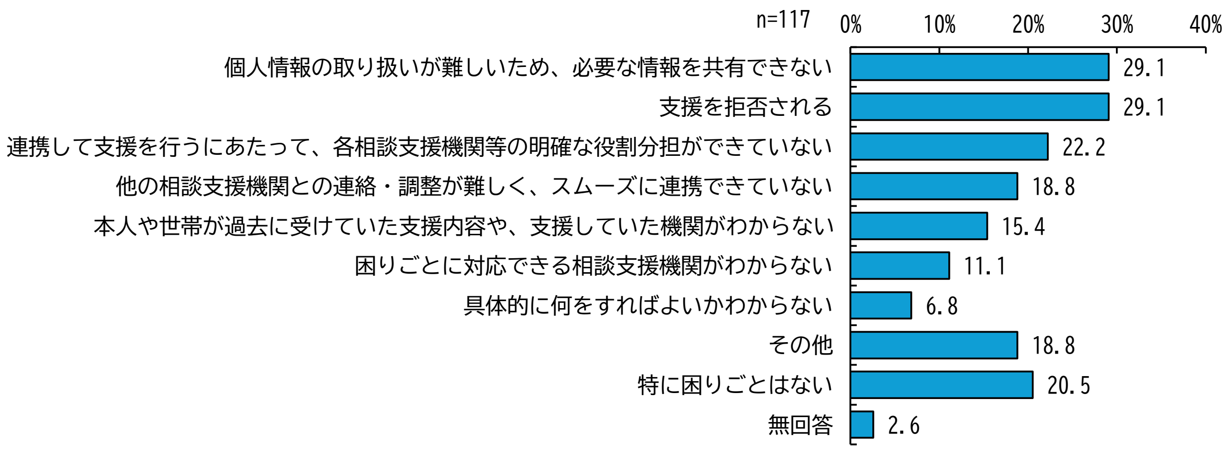


		合計	はい	いいえ	無回答
全体		205	**57.1**	39.5	3.4
団体等の種別	ボランティア団体	8	37.5	**62.5**	0.0
	NPO法人・団体	24	45.8	**54.2**	0.0
	区民活動団体	8	**62.5**	37.5	0.0
	町会・自治会、住区住民会議	33	**45.5**	**45.5**	9.1
	竹の子クラブ（老人クラブ）	8	**50.0**	37.5	12.5
	民生委員・児童委員	98	**65.3**	31.6	3.1
	社会福祉法人	17	**52.9**	47.1	0.0
	福祉事業者	5	**60.0**	40.0	0.0
	その他	4	**75.0**	25.0	0.0

単位：%

（3）支援をしている中での困りごと（複数回答）：【問 11】

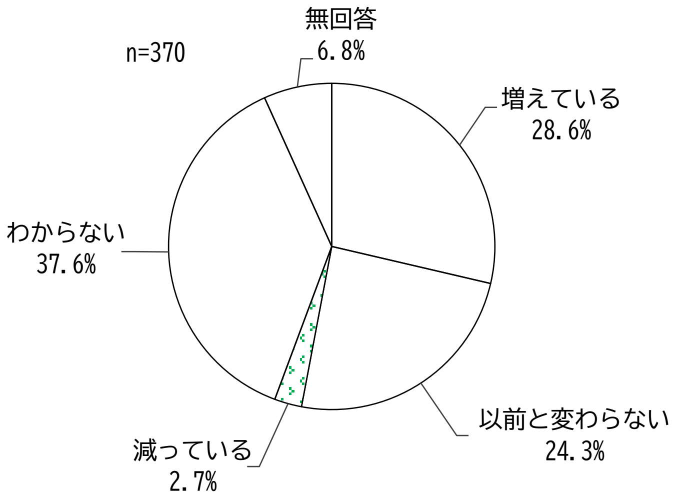
・（2）で“支援の経験がある”と回答した方に、支援する中での困りごとを聞いたところ、「個人情報の取り扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」と「支援を拒否される」（29.1％）が特に多く、「連携して支援を行うにあたって、各相談支援機関等の明確な役割分担ができていない」（22.2％）、「他の相談支援機関との連絡・調整が難しく、スムーズに連携できていない」（18.8％）なども上位に挙げられている。



「その他」の内容：「行政との連携が十分にできていない」「困難事例とされて、行政、支援者が協力的でない」「対応できる資源、サービス及び社会保障制度がないこと」「支援の介入を断られる、連絡が取れない」など

（4）複雑な課題や複合的な課題を抱えた人や世帯の５年間の動向(変化)（単数回答）:【問 12】

・「わからない」（37.6%）が最も多いものの、次いで「増えている」が 28.6%と 4 分の 1 以上の割合を占めている。一方、「以前と変わらない」は 24.3%、「減っている」はわずか 2.7%となっており、やや増加の傾向がみられる。
・団体等の種別でみると、NPO 法人・団体、区民活動団体、社会福祉法人などで「増えている」の割合が高くなっている。また、活動地区別でみると、中央や南部で「増えている」の割合が比較的高い。



		合計	増えている	以前と変わらない	減っている	わからない	無回答
全体		370	28.6	24.3	2.7	**37.6**	6.8
団体等の種別	ボランティア団体	29	20.7	20.7	0.0	**44.8**	13.8
	NPO法人・団体	28	**50.0**	17.9	3.6	28.6	0.0
	区民活動団体	13	**46.2**	7.7	0.0	**46.2**	0.0
	町会・自治会、住区住民会議	63	14.3	28.6	6.3	**36.5**	14.3
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	14.8	14.8	0.0	**48.1**	22.2
	民生委員・児童委員	170	26.5	30.6	2.9	**37.1**	2.9
	社会福祉法人	22	**63.6**	9.1	0.0	22.7	4.5
	福祉事業者	10	30.0	20.0	0.0	**50.0**	0.0
	その他	8	**62.5**	0.0	0.0	37.5	0.0
活動地区	北部	74	27.0	20.3	4.1	**40.5**	8.1
	東部	88	26.1	25.0	1.1	**39.8**	8.0
	中央	94	35.1	16.0	5.3	**38.3**	5.3
	南部	76	**31.6**	28.9	1.3	**31.6**	6.6
	西部	96	22.9	25.0	2.1	**41.7**	8.3
	上記以外	3	**100.0**	0.0	0.0	0.0	0.0

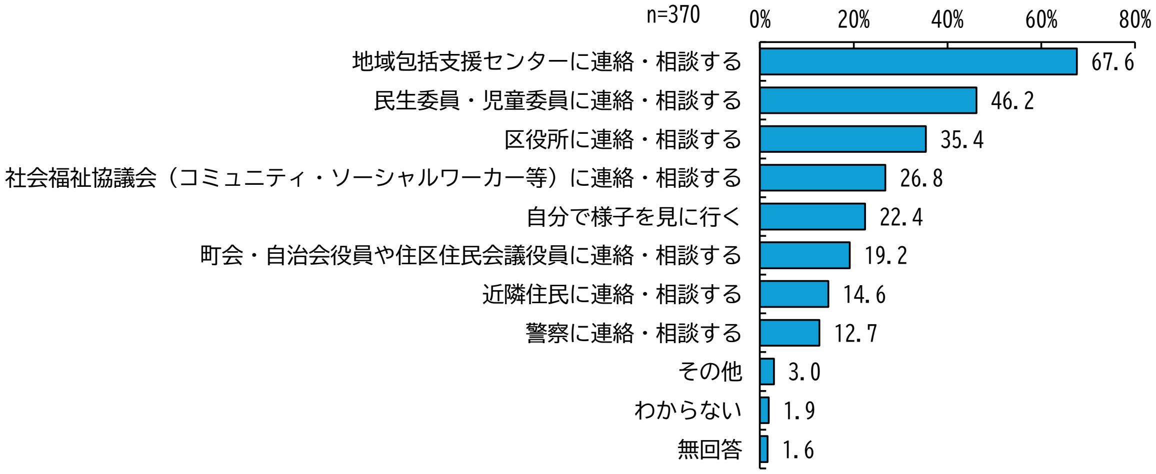
単位：%

5　孤立世帯・ひきこもりへの対応等について

（1）近隣と関わりを持たず何らかの助けが必要な世帯を発見した際の対応（複数回答）：【問 13】

・「地域包括支援センターに連絡・相談する」（67.6%）が最も多く、次いで「民生委員・児童委員に連絡・相談する」（46.2%）、「区役所に連絡・相談する」（35.4%）と続く。

・団体等の種別でみると、町会・自治会、住区住民会議で「民生委員・児童委員に連絡・相談する」、民生委員・児童委員で「地域包括支援センターに連絡・相談する」、社会福祉法人、福祉事業者で「区役所に連絡・相談する」の割合が特に高くなっている。また、活動地区別でみると、「地域包括支援センターに連絡・相談する」の割合は中央、南部、西部でやや高くなっているほか、中央では「社会福祉協議会（コミュニティ・ソーシャルワーカー等）に連絡・相談する」、南部と西部では「自分で様子を見に行く」の割合が比較的高いなど地域別の特徴がみられる。



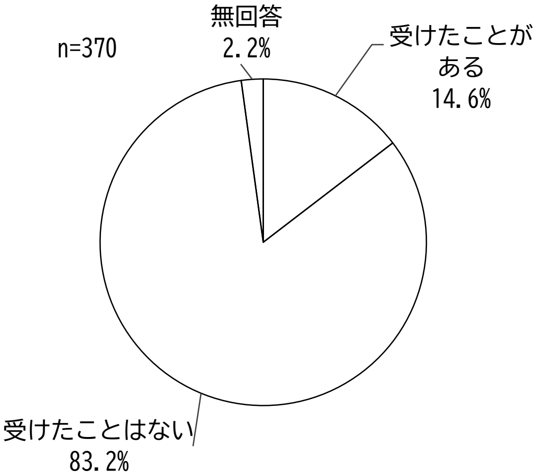
		合計	自分で様子を見に行く	近隣住民に連絡・相談する	町会・自治会役員や住区住民会議役員に連絡・相談する	民生委員・児童委員に連絡・相談する	区役所に連絡・相談する	地域包括支援センターに連絡・相談する	社会福祉協議会（コミュニティ・ソーシャルワーカー等）に連絡・相談する	警察に連絡・相談する
	全体	370	22.4	14.6	19.2	46.2	35.4	**67.6**	26.8	12.7
団体等の種別	ボランティア団体	29	10.3	20.7	20.7	31.0	20.7	**51.7**	13.8	10.3
	NPO法人・団体	28	3.6	7.1	7.1	39.3	50.0	**64.3**	50.0	14.3
	区民活動団体	13	23.1	**38.5**	7.7	**38.5**	30.8	**38.5**	30.8	7.7
	町会・自治会、住区住民会議	63	20.6	19.0	34.9	**74.6**	36.5	55.6	15.9	12.7
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	7.4	18.5	22.2	33.3	18.5	**55.6**	25.9	7.4
	民生委員・児童委員	170	31.2	11.2	14.7	45.9	27.6	**85.3**	26.5	10.0
	社会福祉法人	22	31.8	22.7	36.4	50.0	**90.9**	50.0	36.4	27.3
	福祉事業者	10	0.0	0.0	10.0	10.0	**80.0**	20.0	30.0	50.0
	その他	8	12.5	0.0	0.0	0.0	**50.0**	**50.0**	**50.0**	12.5
活動地区	北部	74	16.2	17.6	23.0	47.3	39.2	**58.1**	20.3	18.9
	東部	88	18.2	14.8	18.2	47.7	40.9	**54.5**	30.7	11.4
	中央	94	17.0	11.7	14.9	52.1	46.8	**67.0**	37.2	13.8
	南部	76	30.3	15.8	26.3	42.1	27.6	**68.4**	23.7	11.8
	西部	96	30.2	13.5	17.7	49.0	34.4	**68.8**	28.1	14.6
	上記以外	3	0.0	33.3	33.3	**66.7**	**66.7**	**66.7**	**66.7**	33.3

単位：%

※「その他」「わからない」を除く

（2）ひきこもり傾向にある方や家族から相談・情報提供を受けた経験（単数回答）：【問 14】

・「受けたことがある」が 14.6%に対し、「受けたことはない」が 83.2%となっている。
・団体等の種別でみると、NPO 法人・団体、区民活動団体、社会福祉法人、福祉事業者で「受けたことがある」の割合が高くなっている。



		合計	受けたことがある	受けたことはない	無回答
全体		370	14.6	83.2	2.2
団体等の種別	ボランティア団体	29	13.8	79.3	6.9
	NPO法人・団体	28	46.4	53.6	0.0
	区民活動団体	13	38.5	53.8	7.7
	町会・自治会、住区住民会議	63	7.9	90.5	1.6
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	3.7	92.6	3.7
	民生委員・児童委員	170	8.8	89.4	1.8
	社会福祉法人	22	22.7	77.3	0.0
	福祉事業者	10	40.0	60.0	0.0
	その他	8	25.0	75.0	0.0
活動地区	北部	74	17.6	79.7	2.7
	東部	88	11.4	83.0	5.7
	中央	94	19.1	78.7	2.1
	南部	76	18.4	80.3	1.3
	西部	96	12.5	86.5	1.0
	上記以外	3	66.7	33.3	0.0

単位：%

（3）ひきこもりの相談を受けた際、対応に困ったこと（記述回答）：【問 15】

・ひきこもりの相談を受けた際、対応に困ったことについて記入してもらったところ、家族には会えるが本人に会うことができず支援につながりにくい、子どもの場合は教育と福祉の窓口がわかれているため複合的な問題に対応しにくい、などの回答があった。以下、具体的な記述があったものを抜粋して掲載する。

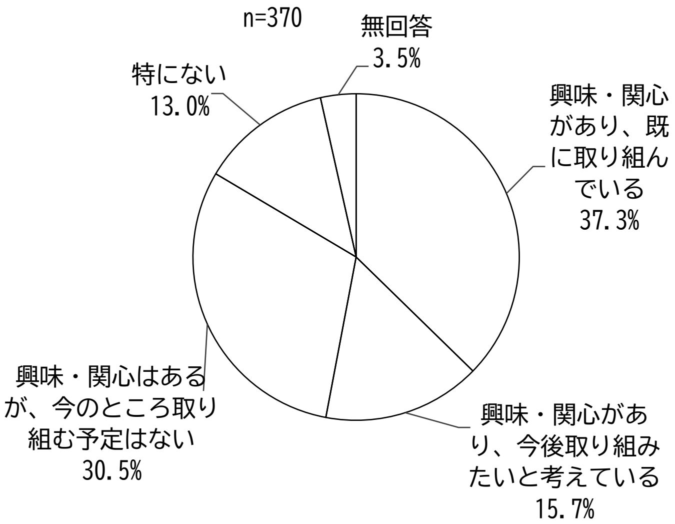
■「ひきこもり」の相談を受けた際、対応に困ったこと

- 子どもの相談を受け区のこども家庭センターに相談をすすめたが、結局本人が動かなく拒否するため何も変えられない。（北部、民生委員・児童委員）
- 不登校でひきこもり傾向の子どもの保護者から相談を受けることはよくあるが、行政とつながることが難しい。スクールソーシャルワーカーと連携をするすべがない。教育と福祉の窓口が分かれているため、不登校と発達障害の複合的な問題に対応できない。子どもに対して直接的に支援できることが少なく、まずは保護者の悩みを傾聴して、保護者の心の状態をよくすることに力点を置くしかない。（北部、東部、中央、区民活動団体）
- 子の習い事など早期教育を支持する人に、子の今を大切にするよう伝えるが伝わらないことも多い。学校に行かせようとしたり、外に出そうとするがうまくいかないという悩みが多いので、焦らず無理せずと伝えるが、当事者は早く解決したいという思いが強い。（北部、ボランティア団体）
- 活用できる社会資源が少ない。（北部、福祉事業者）
- ひきこもり対象者と直接会うことができなかったこと。（北部、東部、中央、西部、社会福祉法人）
- 生活困窮のケースが増えているので、対応に苦慮している。本人がひきこもり独居で地域から孤立しているようなケース。（東部、NPO 法人・団体）
- 子どもの引きこもりで困っていることを、何処かに相談したことが子どもに分かると家の中で大変なことになるので、講演会等のチラシも渡せない。仲のいい方がいつも辛い思いを聞いてあげていた。（中央、民生委員・児童委員）
- 家族から相談は受けるが、本人に会えない。（中央、NPO 法人・団体）
- 当事者に「状況を変えたい、支援協力を受けたい」と思ってもらえないと、なかなか支援介入することが難しい。一事業所としては、経過観察だけで直接サービスにつながらないケースに対して長期的に関わる事が難しい。（中央、福祉事業者）
- 明らかに課題になっているがご家庭に困り感がなく介入が難しい。（南部、NPO 法人・団体）
- 本人が支援を拒否して支援を受け入れてくれない。（南部、その他）
- 就園先について悩んでいる場合、こちらも園の情報を持っていないので困る。（どの園どのような保育をしているかなど、特に支援の必要な子の受け入れなど）発達が気になる子の療育に関して、どこに尋ねていいか、わからない。（西部、区民活動団体）

（4）地域の居場所の提供となるような取り組みへの興味・関心（単数回答）：【問 16】

・「興味・関心があり、既に取り組んでいる」が 37.3％、「興味・関心があり、今後取り組みたいと考えている」が 15.7％に対し、「興味・関心はあるが、今のところ取り組む予定はない」は 30.5％となっている。今後の取組意向も含めると、半数以上が居場所の提供について前向きな回答となっている。

・団体等の種別でみると、ボランティア団体、区民活動団体、社会福祉法人などで「興味・関心があり、既に取り組んでいる」の割合が高くなっている。また、活動地区別でみると、西部で「興味・関心があり、既に取り組んでいる」の割合がやや高い。



		合計	興味・関心があり、既に取り組んでいる	興味・関心があり、今後取り組みたいと考えている	興味・関心はあるが、今のところ取り組む予定はない	特にない	無回答
全体		370	**37.3**	15.7	30.5	13.0	3.5
団体等の種別	ボランティア団体	29	**72.4**	3.4	13.8	3.4	6.9
	NPO法人・団体	28	**39.3**	3.6	17.9	**39.3**	0.0
	区民活動団体	13	**76.9**	15.4	0.0	7.7	0.0
	町会・自治会、住区住民会議	63	30.2	20.6	**39.7**	7.9	1.6
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	**44.4**	11.1	25.9	3.7	14.8
	民生委員・児童委員	170	26.5	18.8	**34.7**	16.5	3.5
	社会福祉法人	22	**54.5**	22.7	22.7	0.0	0.0
	福祉事業者	10	30.0	10.0	**50.0**	10.0	0.0
	その他	8	**62.5**	0.0	37.5	0.0	0.0
活動地区	北部	74	**41.9**	13.5	33.8	8.1	2.7
	東部	88	**36.4**	14.8	34.1	10.2	4.5
	中央	94	**33.0**	17.0	28.7	16.0	5.3
	南部	76	**44.7**	13.2	30.3	7.9	3.9
	西部	96	**47.9**	13.5	21.9	13.5	3.1
	上記以外	3	**66.7**	33.3	0.0	0.0	0.0

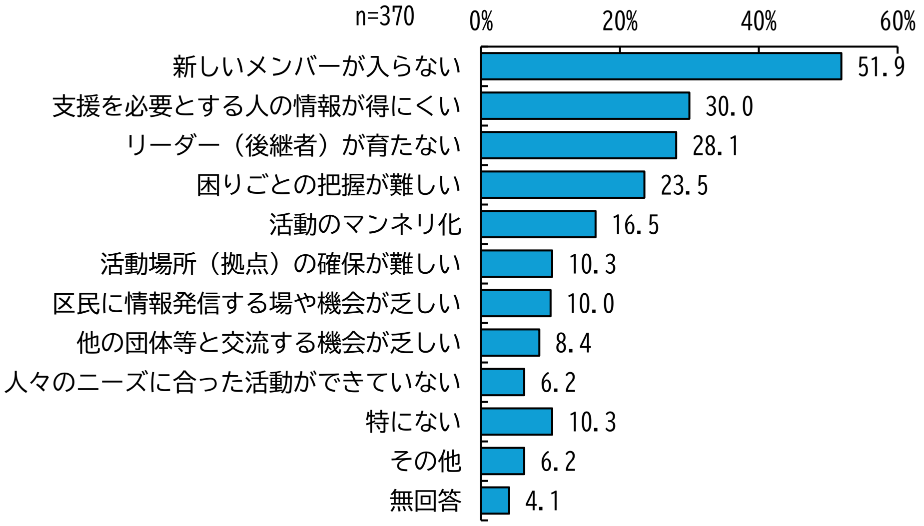
単位：％

6　活動（事業）を行う上での困りごとや区に期待することについて

（1）活動（事業）を行う上で困っていること（複数回答）：【問 17】

・「新しいメンバーが入らない」（51.9％）が最も多く、「支援を必要とする人の情報が得にくい」（30.0％）、「リーダー（後継者）が育たない」（28.1％）、「困りごとの把握が難しい」（23.5％）などが上位に挙げられている。

・団体等の種別でみると、NPO 法人・団体、町会・自治会、住区住民会議、竹の子クラブ（老人クラブ）などで「新しいメンバーが入らない」「リーダー（後継者）が育たない」の割合が特に高くなっている。また、区民活動団体で「支援を必要とする人の情報が得にくい」、民生委員・児童委員で「困りごとの把握が難しい」、社会福祉法人で「他の団体等と交流する機会が乏しい」の割合が比較的高いなど特徴がみられる。活動地区別でみると、北部で「新しいメンバーが入らない」「活動のマンネリ化」の割合が高いなど地域別の特徴がみられる。



		合計	活動のマンネリ化	新しいメンバーが入らない	リーダー（後継者）が育たない	区民に情報発信する場や機会が乏しい	人々のニーズに合った活動ができていない	支援を必要とする人の情報が得にくい	困りごとの把握が難しい	他の団体等と交流する機会が乏しい	活動場所（拠点）の確保が難しい
全体		370	16.5	**51.9**	28.1	10.0	6.2	30.0	23.5	8.4	10.3
団体等の種別	ボランティア団体	29	24.1	**41.4**	31.0	17.2	3.4	20.7	10.3	17.2	17.2
	NPO法人・団体	28	3.6	**71.4**	67.9	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3
	区民活動団体	13	7.7	**53.8**	38.5	23.1	7.7	46.2	7.7	15.4	23.1
	町会・自治会、住区住民会議	63	27.0	**73.0**	44.4	4.8	4.8	28.6	23.8	3.2	14.3
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	37.0	**70.4**	55.6	14.8	7.4	18.5	11.1	18.5	0.0
	民生委員・児童委員	170	10.6	**44.7**	12.9	7.6	7.1	38.2	34.1	4.7	6.5
	社会福祉法人	22	13.6	22.7	18.2	13.6	4.5	13.6	22.7	**31.8**	22.7
	福祉事業者	10	30.0	**50.0**	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	8	12.5	25.0	12.5	12.5	37.5	**75.0**	25.0	25.0	12.5
活動地区	北部	74	25.7	**60.8**	32.4	5.4	5.4	25.7	21.6	9.5	8.1
	東部	88	14.8	**51.1**	30.7	12.5	5.7	35.2	22.7	12.5	8.0
	中央	94	14.9	**55.3**	25.5	9.6	9.6	33.0	26.6	6.4	12.8
	南部	76	18.4	**51.3**	31.6	17.1	9.2	34.2	19.7	6.6	13.2
	西部	96	16.7	**52.1**	31.3	8.3	5.2	26.0	20.8	6.3	13.5
	上記以外	3	0.0	**66.7**	**66.7**	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

単位：％

※「特にない」「その他」を除く

・選択肢に挙げられた内容のほか、活動（事業）を行う上で困っていることについて記入してもらったところ、会員や役員・リーダーの高齢化、若い世代を中心とした担い手・人材の不足、活動場所の問題などが挙げられた。以下、具体的な記述があったものを抜粋して掲載する。

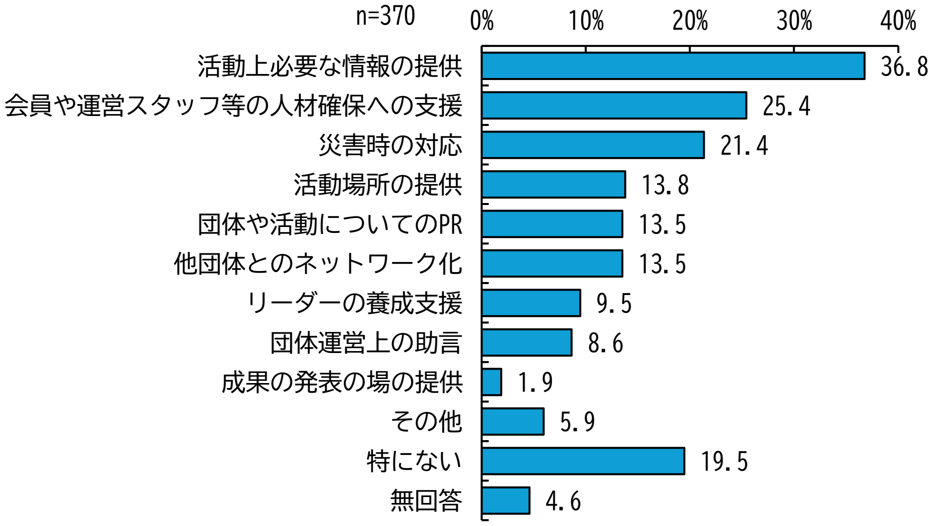
■その他、活動（事業）を行う上で困っていること

- リーダー（後継者）育成につとめている。（北部、町会・自治会、住区住民会議）
- マンションだと中に入ることがとても難しい。また番地や名前の明記がないのでわかりづらい。訪問しても本人が出られない場合（足が悪かったり）申し訳なく思ったりすることがある。（北部、民生委員・児童委員）
- 今活動している事を次の人に続けていくことが難しい。仕事としてやると負担になるので受け入れてくれないことが多い。（北部、民生委員・児童委員協議会）
- 活動方針を理解し、スキルのある運営スタッフの人材確保とその資金。（北部、NPO 法人・団体）
- 活動場所が少ない、狭い、照明が暗い。（東部、社会福祉法人）
- 高齢者は年々増えているが、未来を託したい若い高齢者の確保が難しい。現代を謳歌し、充実した余生を送っている。地域のサークルに参加するより、自身の生活スタイルに合った仲間との交流を楽しんでいる傾向がみられる。そしてそれも良いと考える。（東部、南部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- リーダーの高齢化で今後が心配。（東部、ボランティア団体）
- ボランティアとして手伝ってもらうも長続きしない。（東部、ボランティア団体）
- 役員の高齢化が進み活動できる役員の不足。（東部、南部、町会・自治会、住区住民会議）
- 施設運営上における物価高騰等による経費の増。（北部、東部、中央、西部、社会福祉法人）
- 民生委員・児童委員（ボランティア）では昨今の老人を狙った詐欺事件などもあり各世帯に訪問する際警戒される。地域包括支援センターに言っているのでとか、ヘルパーに伝えているのでと言い、こちらには情報を伝えてくれないこともしばしばある。（中央、民生委員・児童委員）
- 団塊の世代が後期高齢者になったが、それぞれ現役時代に多様な趣味を持ち、またスポーツジム等に入り老人クラブの入会が少ない。（中央、南部、西部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 町会役員や民生委員・児童委員のなり手がいない。（中央、民生委員・児童委員）
- マンションの一部やチェーン店が地域の活動に消極的である。（中央、町会・自治会、住区住民会議）
- ほとんど方は仕事を抱えて活動している。時間に余裕がなく、日中の電話対応は難しい。（南部、民生委員・児童委員）
- 高齢者が一人で、ひとり暮らし高齢者登録を申し込み家族が把握していない時がある。（南部、民生委員・児童委員）
- 若い人（後継者）に特に核となる人が少ない。当日の手伝いは結構いる。（西部、ボランティア団体）
- メンバー（会員）の高齢化で退会等が多く、新メンバーの入会者を上回る状況が数年間続いている。（西部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 高齢化が進み入れ替わりが激しく以前のような交流が持ちにくくなった。（西部、町会・自治会、住区住民会議）
- 小学校を利用しての行事があるが、昨年から使用することが難しくなった。（西部、町会・自治会、住区住民会議）

（2）活動（事業）を行う上で区に期待すること（複数回答）：【問 18】

・「活動上必要な情報の提供」（36.8%）が最も多く、次いで「会員や運営スタッフ等の人材確保への支援」（25.4%）、「災害時の対応」（21.4%）などが上位に挙げられている。

・団体等の種別でみると、民生委員・児童委員で「活動上必要な情報の提供」、区民活動団体や社会福祉法人で「活動場所の提供」、竹の子クラブ（老人クラブ）や区民活動団体で「団体や活動についての PR」、町会・自治会、住区住民会議で「災害時の対応」、福祉事業者や社会福祉法人で「他団体とのネットワーク化」の割合が高いなど特徴がみられる。活動地区別でみると、中央で「他団体とのネットワーク化」、中央、南部、西部で「災害時の対応」の割合が高いなど地域別の特徴がみられる。



		合計	活動上必要な情報の提供	会員や運営スタッフ等の人材確保への支援	活動場所の提供	団体や活動についてのPR	団体運営上の助言	他団体とのネットワーク化	リーダーの養成支援	成果の発表の場の提供	災害時の対応
	全体	370	**36.8**	25.4	13.8	13.5	8.6	13.5	9.5	1.9	21.4
団体等の種別	ボランティア団体	29	**31.0**	**31.0**	17.2	20.7	10.3	6.9	17.2	3.4	6.9
	NPO法人・団体	28	25.0	21.4	17.9	14.3	7.1	7.1	7.1	0.0	21.4
	区民活動団体	13	23.1	23.1	**46.2**	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4
	町会・自治会、住区住民会議	63	28.6	25.4	11.1	9.5	11.1	6.3	14.3	0.0	**38.1**
	竹の子クラブ（老人クラブ）	27	25.9	18.5	7.4	**37.0**	11.1	3.7	11.1	14.8	18.5
	民生委員・児童委員	170	**47.6**	27.1	9.4	7.1	5.9	17.1	7.6	0.6	19.4
	社会福祉法人	22	27.3	18.2	**31.8**	27.3	13.6	22.7	13.6	4.5	18.2
	福祉事業者	10	20.0	**30.0**	20.0	0.0	10.0	**30.0**	0.0	0.0	20.0
	その他	8	37.5	25.0	12.5	25.0	37.5	**50.0**	0.0	0.0	12.5
活動地区	北部	74	**32.4**	27.0	12.2	13.5	12.2	9.5	9.5	4.1	8.1
	東部	88	**38.6**	19.3	12.5	21.6	3.4	14.8	9.1	2.3	20.5
	中央	94	**38.3**	26.6	16.0	18.1	11.7	20.2	10.6	2.1	26.6
	南部	76	**40.8**	30.3	14.5	11.8	7.9	7.9	7.9	0.0	27.6
	西部	96	**33.3**	19.8	14.6	12.5	5.2	7.3	10.4	2.1	25.0
	上記以外	3	33.3	33.3	**66.7**	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

単位：%

※「その他」「特にない」を除く

（3）活動（事業）を行う上で区に期待すること（記述回答）：【問 18】

・活動（事業）を行う上で区に期待することについて、記述件数は以下の通り。

活動(事業)を行う上で区に期待すること	件数
活動上必要な情報の提供	70
会員や運営スタッフ等の人材確保への支援	66
災害時の対応	46
活動場所の提供	35
他団体とのネットワーク化	27
団体や活動についての PR	25
団体運営上の助言	21
リーダーの養成支援	17
成果の発表の場の提供	2
その他	19

・以下、上位に挙げられた項目（20 件以上）の主な記述内容を抜粋し、掲載する。

■活動上必要な情報の提供

- 伝えた情報の結果を必ず守秘義務に当たらない範囲で返してほしい。（北部、民生委員・児童委員）
- 各団体との意見の場、またはそれぞれの団体の成果の発表等の場を設けて、交流をより多くする。（北部、東部、中央、区民活動団体）
- 参加者が少ないということは、知られていない、ニーズに合っていないと思われるが、今以上の周知の手段や改善方法などがわからない。子育てサロンという居場所の活性化、必要性など支援やアドバイスがほしい。（北部、ボランティア団体）
- 子育て支援に関するイベントを計画する際に利用者のニーズに応える為、適任と思われる専門知識がある方の紹介等。（例えば保健師の派遣や歯科衛生士の派遣等）（北部、社会福祉法人）
- 訪問時に相手の情報があるといい。事業所がどこで、連絡がとれる情報がわかったらありがたい。（東部、民生委員・児童委員）
- 子どもの発達支援に関わる情報や就学についての情報を見逃しがないように、メールなどで配信してほしい。（中央、その他）
- 最低限の情報だけでもいただければ、支援につながることもあるかと思うが、個人情報の壁はとても厚い。（中央、民生委員・児童委員）
- 高齢者の日常について、身体上のことや住環境のことなど地域包括支援センター、ヘルパー等、関わりのある方々の情報の共有化が出来ると良いと思う。（南部、民生委員・児童委員）
- 区へ情報提供しても区からの情報提供がない。もっと情報を提供してほしい。（西部、町会・自治会、住区住民会議）
- 区の施策が高齢者や生活などに分かれているため、横々で情報が伝わらず訪問等の活動につながりにくいケースがある。（西部、民生委員・児童委員）

■会員や運営スタッフ等の人材確保への支援

・ 町会単独では次期役員を集めることは非常に困難になっている。町会の存続に関わる状況にある。区からの人材サポートが必要。（北部、町会・自治会、住区住民会議）
・ 民生委員・児童委員を引き受けてくれる人が簡単には見つからなく苦労した。（北部、民生委員・児童委員）
・ 担い手の高齢化が著しい。若者を巻き込む仕掛けづくりを期待したい。（東部、社会福祉法人）
・ 高齢化が進み、次の世代が入会してこない。健康年齢が延びたことと、労働力不足から何らかの形で皆仕事をしているため。（中央、南部、竹の子クラブ（老人クラブ））
・ 自主的、主体的に活動を行う（行える）人材が減少しがちであるため。要支援の軽度な高齢者はデイサービスではなく地域活動に参加する形が望ましい。（中央、福祉事業者）
・ ボランティアをしてみたい方と、ボランティアやスタッフを求めている団体との橋渡しの頻度を多く、積極的に行ってほしい。（希望があった人には繋ぐ程度ではなく）（中央、西部、NPO 法人・団体）
・ 子どもの支援には若い世代の人材が必要であり、重要だと感じている。やりたいけれど自身の生活もありボランティアでは継続できないこともある。きちんと人件費が発生するしくみになると担い手も増えると思うので、人件費確保のためのお金の支援をしてほしい。（南部、ボランティア団体）
・ 住区センター、町会の両方に共通していることとしてメンバーが高齢化しているため、若返りが難しい。役所との会合が平日の昼間が多いので、働いている人は休暇を請求する必要があるので、若手の方は遠慮する。（南部、町会・自治会、住区住民会議）
・ 仕事をもっている方でも活動できるよう活動内容の簡素化。（西部、民生委員・児童委員）
・ 商店街など様々な活動団体があるが、横軸がない状況。どのような活動をしてどんな活動者がいるかわからない状況。こんな悩みに支援してほしい。（西部、町会・自治会、住区住民会議）

■災害時の対応

・ 障害がある方の災害時の対応、対策等。（北部、福祉事業者）
・ 避難行動要支援者名簿が配られているが、実際の災害時に民生委員・児童委員はどのような行動をとれば良いのか、具体的な優先順位などがわからない。訓練とまではいかなくても、災害時の想定マニュアルや指示責任者等がわかると良いと思う。（北部、民生委員・児童委員）
・ 当施設は福祉避難所の指定を受けているが、発災時に地域の人たちをどのような基準（何名くらい、いつまで、受け入れ条件など）で受け入れなければならないのかが良く理解できていないので一定の基準を示していただきたい。（東部、社会福祉法人）
・ 災害ボランティアセンターの運営の中で、社会福祉協議会の支援だけでは足りない部分のフォロー（物品の貸し出し、ボランティア送迎の人員確保等）。（東部、社会福祉法人）
・ 帰宅困難者（利用者、職員を含む）が出た時の宿泊場所の確保のための情報提供。（中央、NPO 法人・団体）
・ 避難訓練をもっとやってほしい。または、その地域ごとの避難訓練の教えを動画にしてほしい。避難経路や民生委員・児童委員が、まずやることなど動画を見れば誰もが学べる環境にしてほしい。（中央、民生委員・児童委員）
・ 避難所運営訓練をもっと、やらなければいけないと思う。（南部、町会・自治会、住区住民会議）
・ 災害時の情報の伝達方法。（西部、町会・自治会、住区住民会議）
・ 避難所運営訓練より、運営システム対応にシフトしたい。防災部は災害時避難所対応や消火対応は訓練で済むが、運営は別である。（西部、町会・自治会、住区住民会議）

■活動場所の提供

- 当町会は町会事務所を持っていないため、小さな会合を行うことができないので、決定が中々進まない事項が多い。（月 1 回の役員会は住区センターを使用しているが）区営アパートの集会室を無料で使用したい（北部、町会・自治会、住区住民会議）
- 活動場所は準備されているが、もう少し広いとよい。（参加者増加により）今後活動を広げていくために各地域にある住区センター等をできれば無料にて使用できるようになるといい。（東部、社会福祉法人）
- 住区センターや老人いこいの家等の管理は区の担当部署が常時実施し、常に利用可能な状況を維持してほしい。管理が民間に委託されるとの話も聞くが、地域住民の集まる貴重な居場所は行政が責任を持って提供してほしい。（東部、南部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 現在、住区住民会議で役員会等を行っているが、民営化され今後継続的に使用できるか不安である。町会会館を持たない町会として公的機関で身近な集会場所の確保は必須。（中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 構成員が日常的に活動、交流の場所が庁舎内にあると便利。担当者の常駐。（中央、民生委員・児童委員）
- 会議等、総合庁舎の会議室や住区センターの会議室を借りることが出来るが、常設のような何時でも使える場所があると良い。（南部、民生委員・児童委員）
- マンション、集合住宅などの空きスペースの活用。（西部、社会福祉法人）

■他団体とのネットワーク化

- 他の団体がどんなことをやっているのか、お互いの団体活動を紹介できるような形ができるとよい。（北部、その他）
- 他団体とつながっていくことは大切なことだと思う。例えば、防災に関しても近くの団体とのネットワークがとれていればすぐに役立つと思っている。（北部、東部、中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 地域包括支援センターからの情報提供、ケアマネージャーとの連携。（東部、民生委員・児童委員）
- 地域包括支援センターと役所等、横のつながりがない事が疑問である。個人情報等難しい問題もあると思うが、もっと連携を取ってほしい。（中央、民生委員・児童委員）
- 民生委員・児童委員が活動する上で、地域包括支援センターやCSWともう少し情報を共有できると、きめ細かく対応できると感じることがある。（中央、民生委員・児童委員）
- 一つの町会だけでなく、他町会と連携した活動もこれからは求められると思われる。近隣町会とのネットワーク化は情報の共有の面からも進めて行くべき課題と思われる。（中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 1 つの活動グループが先細りになっても、ネットワークがあれば合同開催や派生する形でのグループ形成も可能だと思うので、リーダーの方々の集まる機会などがあると良いと思う。（中央、福祉事業者）
- 高齢者の日常について、身体上のことや住環境のことなど地域包括支援センター、ヘルパー等、関わりのある方々の情報の共有化が出来ると良いと思う。（南部、民生委員・児童委員）
- 自分は民生委員・児童委員、町会役員、住区住民会議、警察での手伝い等、いろいろな団体でボランティア活動を行なっているが、全てがバラバラに活動している。ネットワークができれば良いと思っている。（南部、民生委員・児童委員）
- 他団体の交流の場の提供とお知らせ。（西部、福祉事業者）

■団体や活動についてのPR

- 区報で十分PRされているが、続けてほしい。まだまだ目黒竹の子クラブ連合会の事を知らない人が多い。（北部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 今も活動の発信、PRする場所はあるが少ない。発信することにより他団体とつながることもあると思うので大切だと思う。（北部、東部、中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 区民に民生委員・児童委員の活動を紹介してほしい。（北部、民生委員・児童委員）
- 子育てふれあい広場の紹介を小学校や図書館、医療施設等の公的機関に広げて欲しい。（北部、社会福祉法人）
- 新たな担い手を発掘するため、参加者が減少している団体のPRや協議体の取り組み等を区のSNSや区報等で発信してもらう。（東部、社会福祉法人）
- すでに行われているが、住区の掲示板へのチラシの掲示はとてもありがたいです。チラシを見て来ましたという高齢者は多いです。（東部、ボランティア団体）
- 住区住民会議のイベント等はInstagramや町会掲示板などで告知はしているが、区報やLINEなどでも告知してもらいたい。（東部、町会・自治会、住区住民会議）
- 活動団体情報を知ることのできるオンライン上のプラットフォームがあるとよい。（中央、社会福祉法人）
- 社会福祉協議会のボランティアセンターでは、ミニデイサービス、ふれあいサロンの連合会等で活動上必要な情報は得られている。この活動がもっと浸透するため区でのPRがあっても良いと思う。（南部、西部、ボランティア団体）
- まず区の職員に区内の団体の活動内容を把握していただきたい。（西部、町会・自治会、住区住民会議）

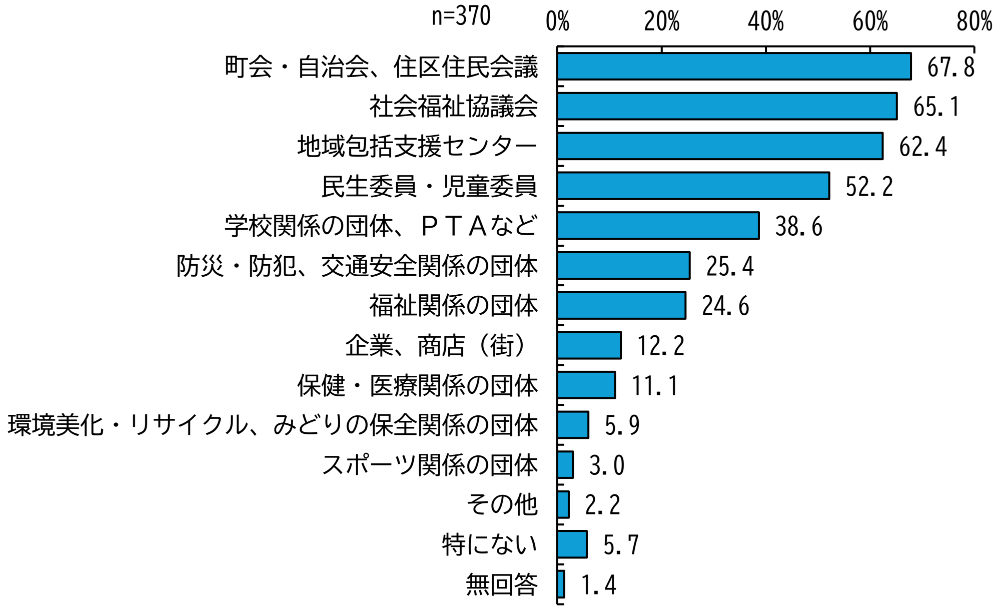
■団体運営上の助言

- 年々会に入る人が少なくなり、会員増強のためにはどうすれば良いか等。（北部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 区職員の担当者が、子育てふれあい広場の視察に来園し、様子を見た上でアドバスを受ける機会を設定してほしい。（北部、社会福祉法人）
- 会員やスタッフの高齢化解消方策。（中央、NPO法人・団体）
- 主体的に活動参加してもらうには、活動内容の選択肢が広がる事が望ましいと思う。これからの高齢者は多様な生き方、趣味、思考を持っているため。（中央、福祉事業者）
- 高齢者からの相談で関係機関へつないだ後のフォローバックが少ないのでどうなったのか考えてほしい。（南部、民生委員・児童委員）
- 法人単体では解決できないような課題に直面した時など、助言がほしい。（南部、社会福祉法人）
- 日常の活動に対して助言がほしい。（西部、民生委員・児童委員）

7　他の団体等との協力・連携について

（1）現在の活動（事業）をする上で協力や連携をしている団体等（複数回答）：【問 19-1】

・「町会・自治会、住区住民会議」（67.8％）、「社会福祉協議会」（65.1％）、「地域包括支援センター」（62.4％）が６割を超えて高く、「民生委員・児童委員」（52.2％）、「学校関係の団体、ＰＴＡなど」（38.6％）も上位に挙げられている。



・団体等の種別でみると、ボランティア団体、NPO 法人・団体、区民活動団体では「社会福祉協議会」、町会・自治会、住区住民会議、竹の子クラブ（老人クラブ）、社会福祉法人では「町会・自治会、住区住民会議」、民生委員・児童委員では「地域包括支援センター」、福祉事業者では「福祉関係の団体」の割合が最も高くなっている。

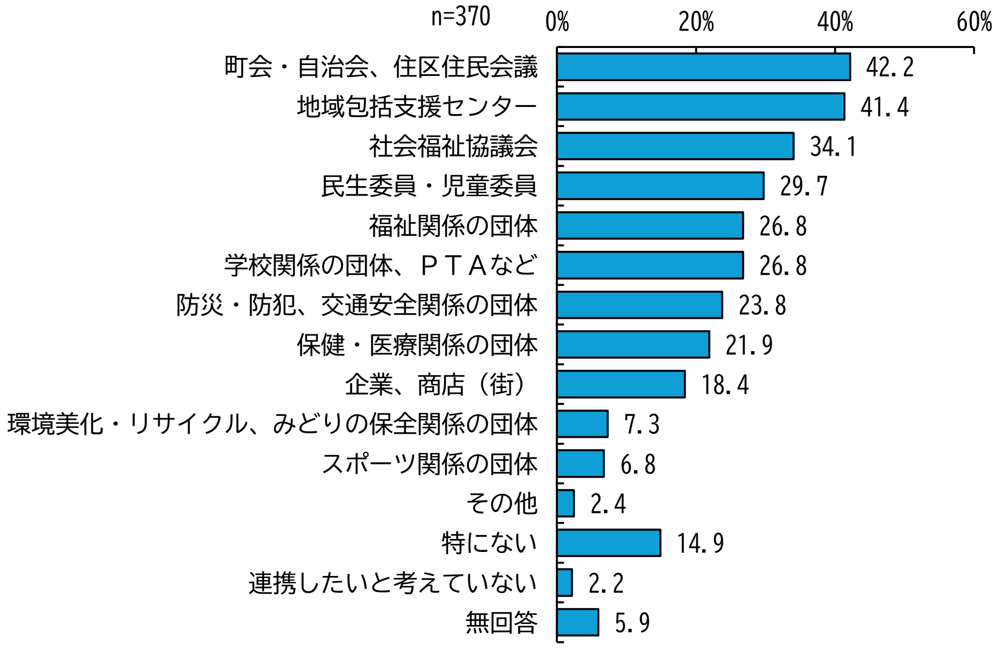
		１位	２位	３位	４位	５位
ボランティア団体	合計 29	社会福祉協議会 **75.9**	地域包括支援センター 48.3	町会・自治会、住区住民会議 34.5	民生委員・児童委員 13.8	福祉関係の団体 13.8
NPO 法人・団体	合計 28	社会福祉協議会 **64.3**	福祉関係の団体 50.0	保健・医療関係の団体 42.9	企業、商店（街） 39.3	地域包括支援センター 35.7
区民活動団体	合計 13	社会福祉協議会 **84.6**	町会・自治会、住区住民会議 53.8	地域包括支援センター 38.5	福祉関係の団体 38.5	学校関係の団体、ＰＴＡなど 30.8
町会・自治会、住区住民会議	合計 63	町会・自治会、住区住民会議 **85.7**	民生委員・児童委員 71.4	防災・防犯、交通安全関係の団体 69.8	学校関係の団体、ＰＴＡなど 49.2	地域包括支援センター 47.6
竹の子クラブ（老人クラブ）	合計 27	町会・自治会、住区住民会議 **77.8**	社会福祉協議会 70.4	地域包括支援センター 59.3	民生委員・児童委員 33.3	防災・防犯、交通安全関係の団体 22.2
民生委員・児童委員	合計 170	地域包括支援センター **79.4**	町会・自治会、住区住民会議 78.2	社会福祉協議会 70.6	民生委員・児童委員 61.2	学校関係の団体、ＰＴＡなど 46.5
社会福祉法人	合計 22	町会・自治会、住区住民会議 **72.7**	社会福祉協議会 68.2	民生委員・児童委員 63.6	地域包括支援センター 63.6	福祉関係の団体 63.6
福祉事業者	合計 10	福祉関係の団体 **70.0**	社会福祉協議会 50.0	学校関係の団体、ＰＴＡなど 50.0	地域包括支援センター 30.0	町会・自治会、住区住民会議／民生委員・児童委員／保健・医療関係の団体 20.0

※団体種別ごとの上位５項目の割合、単位：％

（2）今後連携を強化したいと思う他の団体や組織（複数回答）：【問 19-2】

・「町会・自治会、住区住民会議」（42.2%）、「地域包括支援センター」（41.4%）が４割を超えて高く、「社会福祉協議会」（34.1%）、「民生委員・児童委員」（29.7%）、「福祉関係の団体」「学校関係の団体、ＰＴＡなど」（ともに 26.8%）も上位に挙げられている。

・「連携したいと考えていない」（2.2%）と回答した団体にその理由を聞いたところ、“現状で手一杯”“自身も仲間も高齢で難しい”“個人情報の問題がある”などの回答が挙げられた。



・団体等の種別でみると、ボランティア団体、民生委員・児童委員では「地域包括支援センター」、NPO 法人・団体では「保健・医療関係の団体」、区民活動団体では「社会福祉協議会」の割合が最も高くなっているなど団体別で特徴がみられる。

<table>
<tr><th></th><th></th><th>１位</th><th>２位</th><th>３位</th><th>４位</th><th>５位</th></tr>
<tr><td>ボランティア団体</td><td>合計
29</td><td>地域包括支援センター
34.5</td><td>社会福祉協議会
31.0</td><td>福祉関係の団体
27.6</td><td>町会･自治会、住区住民会議
24.1</td><td>保健・医療関係の団体
20.7</td></tr>
<tr><td>NPO 法人・団体</td><td>合計
28</td><td>保健・医療関係の団体
42.9</td><td>福祉関係の団体
39.3</td><td>民生委員・児童委員
32.1</td><td>企業、商店（街）
28.6</td><td>地域包括支援センター／学校関係の団体、ＰＴＡなど
25.0</td></tr>
<tr><td>区民活動団体</td><td>合計
13</td><td>社会福祉協議会
53.8</td><td colspan="4">町会・自治会、住区住民会議／福祉関係の団体／保健･医療関係の団体／防災・防犯、交通安全関係の団体
46.2</td></tr>
<tr><td>町会・自治会、住区住民会議</td><td>合計
63</td><td>町会･自治会、住区住民会議
60.3</td><td>民生委員・児童委員
46.0</td><td>地域包括支援センター
41.3</td><td>防災･防犯、交通安全関係の団体
39.7</td><td>社会福祉協議会
33.3</td></tr>
<tr><td>竹の子クラブ(老人クラブ)</td><td>合計
27</td><td>町会･自治会、住区住民会議
66.7</td><td>地域包括支援センター
55.6</td><td>社会福祉協議会
51.9</td><td>民生委員・児童委員
44.4</td><td>防災･防犯、交通安全関係の団体
33.3</td></tr>
<tr><td>民生委員･児童委員</td><td>合計
170</td><td>地域包括支援センター
45.9</td><td>町会･自治会、住区住民会議
38.2</td><td>社会福祉協議会
32.4</td><td>学校関係の団体、ＰＴＡなど
27.6</td><td>福祉関係の団体
25.9</td></tr>
<tr><td>社会福祉法人</td><td>合計
22</td><td colspan="3">町会・自治会、住区住民会議／社会福祉協議会／保健・医療関係の団体
54.5</td><td colspan="2">民生委員･児童委員／福祉関係の団体／学校関係の団体、ＰＴＡなど
50.0</td></tr>
<tr><td>福祉事業者</td><td>合計
10</td><td colspan="2">町会・自治会、住区住民会議／福祉関係の団体
30.0</td><td colspan="3">学校関係の団体、ＰＴＡなど／防災・防犯、交通安全関係の団体／企業、商店（街）
20.0</td></tr>
</table>

※団体種別ごとの上位５項目の割合、単位：％

（3）他の団体や組織と協力・連携したい具体的な内容（記述回答）：【問 20】

・他の団体や組織と協力・連携したい内容ついて、159 件の回答があった。以下、記述内容を抜粋し、団体別に掲載する。

■他の団体や組織と協力・連携したい具体的な内容

【ボランティア団体】

- 参加するには健康状態を維持することが不可欠。フレイル予防、健康寿命を延ばすことが大事であり、関心が高いため医療と福祉の連携は必要。（北部、ボランティア団体）
- 同じ様な活動をしている団体の日頃の活動内容を知り、ともにできる事があるのではないかと思う。（東部、ボランティア団体）
- 町内会の人達にもっと活動を知ってもらいたい。（東部、ボランティア団体）
- 参加者やスタッフを増やすための PR（北部、ボランティア団体）

【NPO 法人・団体】

- 主任児童委員、こども家庭センターなどとの情報の共有。（中央、NPO 法人・団体）
- 支援の情報がより多くの区民に届くように、協力・連携したい。（北部、NPO 法人・団体）
- 居場所の広報活動。（東部、南部、NPO 法人・団体）
- ひきこもりの情報共有と就労支援、見守り等の生活支援。（東部、NPO 法人・団体）
- 民生委員・児童委員と介入が難しい家庭への支援で連携を図りたい。保健・医療関係機関と障害特性の見識を深める場を設けたい。（南部、NPO 法人・団体）
- 学校でしか分かりえない、支援を必要とする子どもの情報もある。学校エリア単位で、児童館、学童、主任児童委員らに加え、支援団体なども含めた連絡協議会を定期的に開催できるとよい。精神医療、カウンセリングの分野で支援を必要としている、子どもや、保護者自身もいるので、医療関係の方々と連携がとれるとよい。（中央、西部、NPO 法人・団体）

【区民活動団体】

- サロン利用者が 75 歳以上なので、ボランティアセンター・地域包括支援センターとの連携を密に取っている。（中央、区民活動団体）
- 乳幼児の子育てをしている保護者の学びになるような、地域密着の情報やイベントを提供したり紹介したりできれば、保護者にとって学びになるし、子育ての助けになる。そのために、いろいろな分野の団体と協力してみたい。（西部、区民活動団体）
- 支援が必要な人にマッチした支援に合わせて、いろいろな団体や組織を紹介したい。不登校の子には居場所や学習支援、フリースクールなどを紹介したい。障害のある人には、相談支援や支援員の紹介などで連携したい。社会福祉協議会や行政には、団体のPRと、何よりも活動場所の提供に協力をお願いしたい。（北部、東部、中央、区民活動団体）

【町会・自治会、住区住民会議】

- 最近はようやく地域包括センターの職員が町会イベント（防災関係）に参加している。避難困難者のことが気になるからだと思う。今後も参加をお願いする。（南部、西部、町会・自治会、住区住民会議）
- 個人宅の町会加入は中々増加しない状況の中、店舗や事業所の加入と協力を増やしたいと考えている。その結果として町会活動の活性化を行いたい。（北部、町会・自治会、住区住民会議）
- 比較的穏やかな住環境にある町会だが、災害時には皆パニック状態に陥ると思われる。防災、防犯に関

わる活動をしている団体としては、常日頃から連携、連絡を取り合って共に活動していきたい。また学校が第一次避難場所となるので、常に交流をはかり、顔が見える関係を構築しておきたい。（中央、町会・自治会、住区住民会議）

- 近くに大きな病院があるので、何か協力、連携したいと考えている。最近他町会との関係から病院の掲示板に貼る資料等を届けるようになった。（北部、東部、中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 各町会の主だった方々との交流やイベントを通じて協力したい。（西部、町会・自治会、住区住民会議）
- 子ども達のイベントのためにもPTAとの交流を深めたい。（中央、町会・自治会、住区住民会議）
- 防災訓練も、町会内にある、自宅で商売されている店、会社等がもっと参加していただき、協力をお願いしたい。（南部、町会・自治会、住区住民会議）
- イベントなどでの共催を今後も継続していきたい。地域住民に関係各所の専門性のある情報や体験をしてもらいたい。また、子どもから高齢者まで幅広い世代の方に集まってもらい、互いに交流してもらいたい。（東部、町会・自治会、住区住民会議）

【竹の子クラブ（老人クラブ）】

- 単一クラブだけでの活動は難しい。町会自治会、住区住民会議、また他の関係団体、行政の支援がなければ活動を続けるのは難しく、会員増強にはクラブだけでなく横の関係を密にして、クラブの情報を地域の人に発信してほしい。（北部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- ひとり暮らしの方を竹の子クラブに入会していただき、仲間と支え合い生きがいを見つけて元気で楽しく生活していただくため地域の方と連携したい。（東部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 民生委員・児童委員による広範囲な情報提供がほしい。（西部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 高齢者が参加できる行事等には連携していきたい。（南部、竹の子クラブ（老人クラブ））
- 地域で行う催しや行事は、各団体が協力し合って進めることが必要。（中央、南部、竹の子クラブ（老人クラブ））

【民生委員・児童委員】

- 若い世代との交流、新しいメンバーの育成。（中央、民生委員・児童委員）
- イベントやスポーツ、学生との関わりで交流の場を広げていきたい。（北部、民生委員・児童委員）
- 子どもに近い立場の人と関係を深めたい。（東部、民生委員・児童委員）
- 地域包括支援センター職員がよく働いているが、あまり細分化せず一つにまとめて（窓口を）それから内容によって動く方がわかりやすいと思う。地域コーディネーターとかわかりづらい。カウンセラーも頼りづらいのではないか。（北部、民生委員・児童委員）
- 担当している高齢者の情報を一番把握しやすいのがケアマネージャーだと思うので、個人情報保護に差し支えない範囲で協力できることを知りたい。（南部、民生委員・児童委員）
- 介護施設、障害者団体の活動情報を知り、応援・バックアップをしたい。（南部、民生委員・児童委員）
- 高齢者、特にひとり暮らしの生活環境や児童等の日常生活の過ごし方の情報を共有していきたい。（南部、民生委員・児童委員）
- 個人情報という点から言うと地域包括支援センターとは常に連携し、協力しなければと思う。（西部、民生委員・児童委員）
- 災害対策として近隣の防災、商店街等とのつながりを保ちたい。（西部、民生委員・児童委員）

【社会福祉法人】

- 地域包括支援センターの認知度が低いようである。高齢者の総合的な相談ができることで時々話合っていきたい。介護予防、健康寿命の延伸などの話を聞く機会をつくりたい。（東部、社会福祉法人）

・ 世代を問わず、つながりを作るために誰でもできるスポーツ関係団体と協力し、参加してもらい地域のつながりを深めていきたい。（全地域、社会福祉法人）
・ 協力して欲しいボランティアなどを情報提供し、既存組織や団体の活動の活性につなげたい。（東部、社会福祉法人）

【福祉事業者】

・ 現在、他の福祉団体と障害者自立支援協議会を通して情報交換などをしているが、学校との情報交換が不足しているので、学校や児童館などの情報共有の場があるといいと思う。（西部、福祉事業者）
・ 介護サービス提供のみでなく、地域の防災や防犯の取り組みなどの連携を図っていきたい。（中央、福祉事業者）

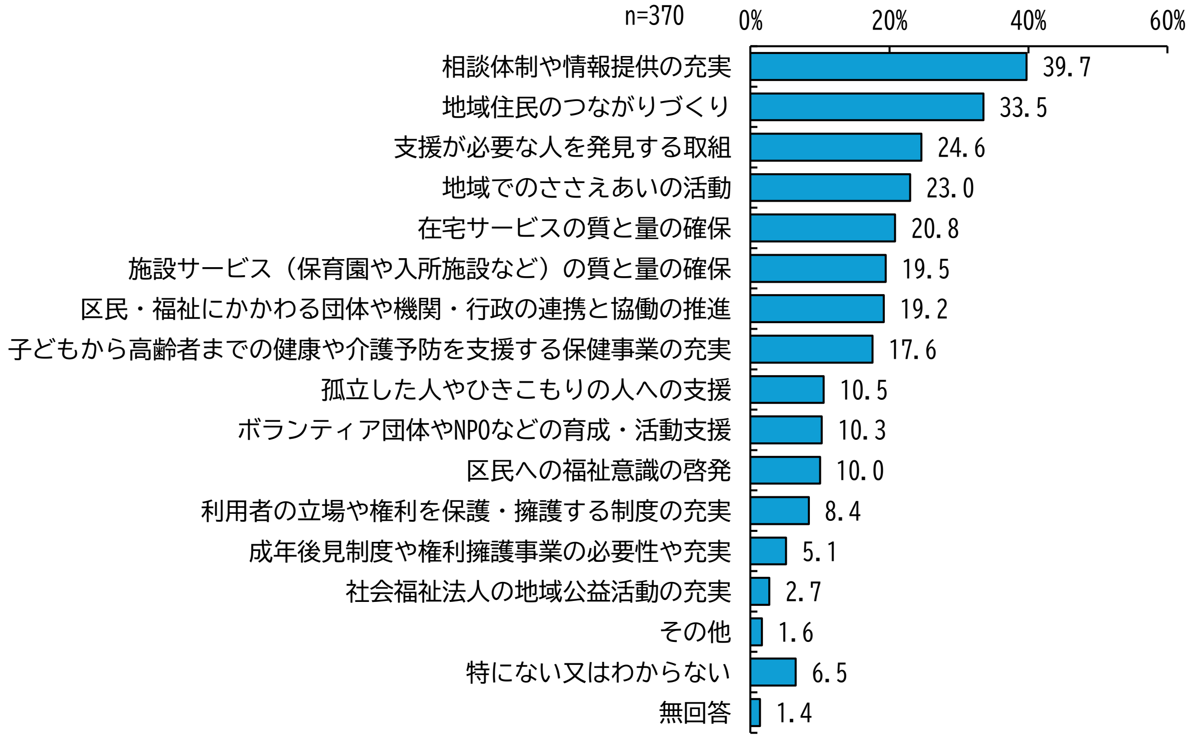
【その他】

・ 当協議会の構成メンバーに医療関係者が含まれていないので、地域の基幹病院又はクリニック等、高齢者の QOL（生活の質）向上につながる関係者を巻き込むことで、地域ニーズが顕在化した時に対応出来るようにしたい。また、保険会社をはじめ企業にも声をかけることで企業の社会的責任（CSR）の一環としての人的、資金的、そして企業の持つ専門性としての価値を提供してもらいたい。（東部、その他）
・ 乳幼児親子などに必要な情報を提供、若しくは催しの開催（西部、その他）

8　福祉サービスの充実のために特に重要な取組について

（1）目黒区の福祉サービスをより充実していくために特に重要と考える取組（複数回答）：【問 21】

・「相談体制や情報提供の充実」（39.7%）が最も多く、「地域住民のつながりづくり」（33.5%）、「支援が必要な人を発見する取組」（24.6%）、「地域でのささえあいの活動」（23.0%）、「在宅サービスの質と量の確保」（20.8%）などが上位に挙げられている。



・団体等の種別でみると、ボランティア団体、区民活動団体では「ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援」、NPO法人・団体では「区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進」、町会・自治会、住区住民会議、竹の子クラブ（老人クラブ）では「地域住民のつながりづくり」、民生委員・児童委員では「相談体制や情報提供の充実」、社会福祉法人では「支援が必要な人を発見する取組」、福祉事業者では「成年後見制度や権利擁護事業の必要性や充実」の割合が最も高くなっているなど団体別で特徴がみられる。

		1位	2位	3位	4位	5位
ボランティア団体	合計 29	ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援 **44.8**	相談体制や情報提供の充実 地域住民のつながりづくり 34.5		在宅サービスの質と量の確保 20.7	地域でのささえあいの活動／支援が必要な人を発見する取組 20.7
NPO法人・団体	合計 28	区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進 **46.4**	相談体制や情報提供の充実 35.7	在宅サービスの質と量の確保 25.0	ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援 21.4	地域でのささえあいの活動／支援が必要な人を発見する取組 10.7
区民活動団体	合計 13	ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援 **53.8**	相談体制や情報提供の充実 46.2	地域住民のつながりづくり／区民･福祉にかかわる団体や機関･行政の連携と協働の推進 30.8		利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実／支援が必要な人を発見する取組 23.1
町会・自治会、住区住民会議	合計 63	地域住民のつながりづくり **41.3**	相談体制や情報提供の充実 39.7	地域でのささえあいの活動 27.0	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保 20.6	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実／在宅サービスの質と量の確保 19.0
竹の子クラブ（老人クラブ）	合計 27	地域住民のつながりづくり **40.7**	子どもから高齢者までの健康や介護予防を支援する保健事業の充実 37.0	相談体制や情報提供の充実 29.6	地域でのささえあいの活動 25.9	支援が必要な人を発見する取組 14.8
民生委員・児童委員	合計 170	相談体制や情報提供の充実 **40.6**	地域住民のつながりづくり 38.2	支援が必要な人を発見する取組 27.1	在宅サービスの質と量の確保 24.1	地域でのささえあいの活動 22.9
社会福祉法人	合計 22	支援が必要な人を発見する取組 **50.0**	相談体制や情報提供の充実 45.5	施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保／区民･福祉にかかわる団体や機関･行政の連携と協働の推進 31.8		地域でのささえあいの活動 27.3
福祉事業者	合計 10	成年後見制度や権利擁護事業の必要性や充実 **40.0**	支援が必要な人を発見する取組 30.0	相談体制や情報提供の充実／施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保／地域でのささえあいの活動／区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進／区民への福祉意識の啓発 20.0		

※団体種別ごとの上位５項目の割合、単位：％

・活動地区別でみると、東部で「相談体制や情報提供の充実」、南部と西部で「地域住民のつながりづくり」の割合が特に高くなっているほか、東部で「支援が必要な人を発見する取組」、中央で「在宅サービスの質と量の確保」の割合が比較的高いなど地域別の特徴がみられる。

	合計	1位	2位	3位	4位	5位
北部	74	相談体制や情報提供の充実 **35.1**	支援が必要な人を発見する取組 31.1	地域住民のつながりづくり 29.7	在宅サービスの質と量の確保／地域でのささえあいの活動 20.3	
東部	88	相談体制や情報提供の充実 **45.5**	支援が必要な人を発見する取組 27.3	地域住民のつながりづくり 26.1	地域でのささえあいの活動 20.5	区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進 19.3
中央	94	相談体制や情報提供の充実 **35.1**	地域住民のつながりづくり 28.7	在宅サービスの質と量の確保 27.7	区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進 24.5	地域でのささえあいの活動／支援が必要な人を発見する取組 21.3
南部	76	地域住民のつながりづくり **40.8**	相談体制や情報提供の充実 34.2	支援が必要な人を発見する取組 25.0	区民・福祉にかかわる団体や機関・行政の連携と協働の推進 21.1	地域でのささえあいの活動／区民への福祉意識の啓発 19.7
西部	96	相談体制や情報提供の充実 **40.6**	地域住民のつながりづくり 39.6	地域でのささえあいの活動 26.0	在宅サービスの質と量の確保／施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保 21.9	

※地域別の上位５項目の割合、単位：％

Ⅲ　ヒアリング調査の結果

※調査実施後追加予定